

農学部年報

令和 2 年度

高崎健康福祉大学農学部

ご 挨拶

農学部が開設された昨年度から、農学部教育研究活動を記録し、多方面で利用していくために、年報の発行を行っていくことにしました。発行時期としては、翌年のできるだけ早い時期の発行が望ましいのですが、令和2年度の年報は、編集作業が遅れ、年度末近くの発行になってしまいました。

令和2年度の特筆すべきこととして、新型コロナウイルス感染症対策のために、入学式やフレッシュマンキャンプなどが中止になり、また、授業開始が5月の連休明けで、オンライン授業中心になりました。このため、授業で使用するノートパソコンの入手にぎりぎりまで苦労しました。授業については、感染状況をみながら、対面方式での実施を増やし、オンライン方式との併用で実施しました。また、多くの学内行事が中止或いは実施されても例年とは異なる形式になり、学生をはじめ、関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

一方、地域との連携に関しては、昨年9月に締結しました群馬県との「農業振興及び6次産業化推進」に係る連携協定に基づき、群馬県の農政部や試験研究機関と定例の交流会を開催し、授業やセミナーなどでご協力を頂きました。また、6月に、JAグループ群馬と「農業振興及び地域社会の活性化と地域社会で活躍できる次世代人材の育成」の相互連携協力に係る協定を締結し、授業や群馬テレビの「みどりの風」（10月放送）での農学部の紹介などでご協力を頂きました。さらに、11月に、カネコ種苗（株）及び太陽誘電（株）と研究開発や人材育成に関する連携協定を締結しました。加えて、群馬県食品工業協会とは、次年度の連携協定締結に向けての交流を行っています。来年度からは、学部3年生のインターンシップが始まりますが、連携協定に基づきご協力いただける予定で、群馬県内唯一の農学部として着実に地域との連携が進んでいます。

農学部では、3年次から生命科学、作物園芸システム、フードサイエンス、アグリビジネスの4つの専門コースに学生が分かれます。このため、次年度から、他学部所属で兼担の先生が専任になります。また、現在、学部の完成年度前ですが、大学院博士前期課程及び後期課程の設置準備を進めています。農学は、食料や生活資材、生命、環境を対象とした生命科学系の総合科学です。そして、地域振興のために不可欠な学問であり、また、国連が推進するSDGsを達成するために必要な学問でもあります。このため、地域と連携して、健大の特徴である健康と食、そして福祉に関係した総合科学としての新しい農学の確立と、スマート農業や6次産業化などの情報化社会に適応でき、地域活性化や国際的に活躍できる人材の育成に貢献できればと考えていますので、農学部教育研究活動へのご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

農学部長 大政謙次

目 次

1. 学部概要	1
2. 学生状況	2
3. 各種委員会報告	3
3.1. FD・自己点検委員会	3
3.2. 教務委員会	4
3.3. 学生委員会	6
3.4. 入試委員会	7
3.5. 広報委員会	8
3.6. 図書館運営委員会	10
3.7. 動物実験委員会	11
3.8. 遺伝子組換え実験安全委員会	12
3.9. キャリアサポート委員会	13
3.10. 保健・衛生委員会	15
3.11. 地域貢献委員会（高大連携部会、公開授業ワーキンググループ）	17
3.12. 障がい学生支援委員会	18
3.13. 国際交流委員会	19
3.14. ボランティア・市民活動支援センター（VSC）運営委員会	20
3.15. 高崎健康福祉大学農学部スマート農場運営委員会	21
4. 農学部セミナー	23
5. 個人活動報告	26
5.1. 生命科学コース	26
5.2. 作物園芸システムコース	34
5.3. フードサイエンスコース	43
5.4. アグリビジネスコース	51
6. 受賞者リスト	54
7. 外部との連携協定	55
7.1. JA グループ群馬と相互連携協力の推進に係る協定	55
7.2. カネコ種苗株式会社、太陽誘電株式会社との連携協定	56
8. 健大通信	57
9. 大学評議委員会報告	58
10. 生物生産学科ホームページ News & Topics	71
11. 来訪者リスト	76

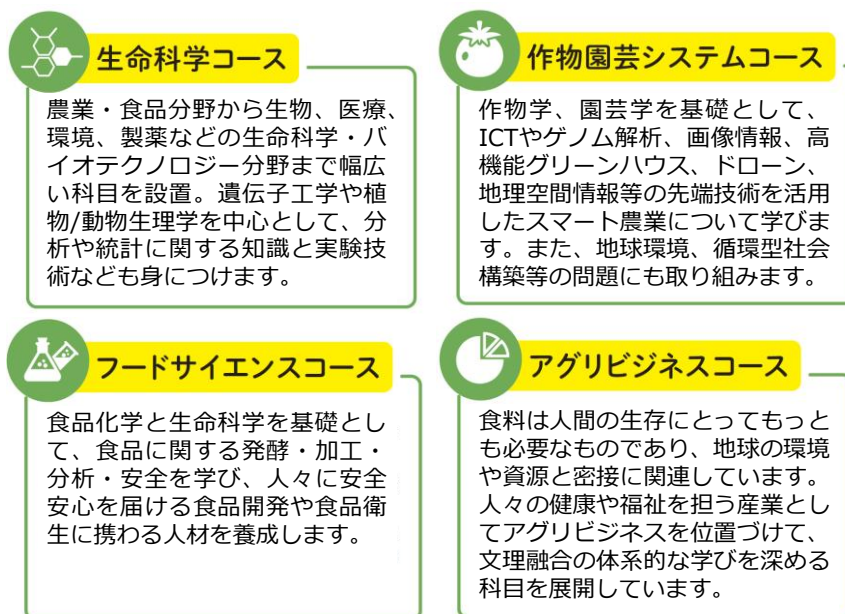
1. 学部概要

農学部生物生産学科では、「生命の基礎を学び、食料の生産や食品の開発、流通・販売、消費」に至る生産から消費までの一連の流れを、生命科学、作物園芸システム、フードサイエンス、そしてアグリビジネスの4つのコースにおいて、広く学ぶことができます。

4年間の教育や研究活動を通じて、「情報化社会をリードし、地域振興に貢献し、国際的に活躍できる人材」を育成します。具体的には、「食」と「農」を体系的に学び、遺伝子工学、ゲノムサイエンス、スマート農業、食品の安心・安全、そして6次産業化などが、人材育成に関わるキーワードです。



生物生産学科の 4つのコース 🌱



2. 学生状況

今年度は97名の1年生が入学し、2年生98名と合わせて、学生数は195名となった。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、前期の講義は基本的にオンライン形式となり、学生は自宅でオンライン学習に取り組むこととなった。農学部では各学生に情報端末（iPad）を購入してもらっていたこともあり、オンライン形式の移行は比較的スムーズだったと思われるが、初期には端末のトラブル、操作の未習熟、教員の不慣れもあり、トラブルもあったが、次第に改善されていった。5月中旬から2年生の実験・実習を中心に大学での講義が再開されたが、講義室、実験室での密集を避けるために、同じ内容を2回に分けて行うなどの分散登校で実施された。後期には1年生の講義科目を含め大学での対面授業の割合が少し増えたが、基本的にはオンライン形式での講義が継続された。4月に行われる予定だったフレッシュマンキャンプを含め、学内学外の様々な関連のイベントが中止もしくは一部オンラインでの開催となった。



学生実験



農場実習

3. 各種委員会報告

3.1. FD・自己点検委員会

委員：川崎 秀樹、草苅 仁、石神 靖弘

活動内容

1. FD・SD 活動に関する事項

10月1日に全学のFD研修会の代替として、「前期オンライン授業の振り返りと意見交換」というテーマで学科FDを開催した。実施状況の取りまとめと事例紹介を行い、それに対する意見交換を行った。

2. 自己点検・評価に関する事項

全学の活動として、改善報告書を7月に大学基準協会へ提出した。また、全学的な取り組みとして、学士課程教育における「学修成果の可視化」に関する指標の開発が必須となっており、次年度に向けてどのような方針で臨むか議論を重ねた。

3. 3つのポリシーに関する事項

生物生産学科の3つのポリシー定期点検会議を8月5日に開催した。外部評価委員2名、学生委員4名、学内教職員7名が出席し、3つのポリシー（AP、CP、DP）それぞれについて、資料を基に各担当者が説明し、外部評価委員との質疑応答を行った。また、学部全体にかかわる意見交換を行った。

3.2. 教務委員会

委員：草苅 仁、清水 庸、加藤 寛、辻 聡（助言役：松岡 寛樹、熊倉 慧）

活動内容

1. 履修関連

農学部事務、授業担当教員およびアドバイザー教員の協力のもと、必修科目やリメディアル科目などの履修状況および授業の出席状況を把握し、学生の履修が順調に進むよう支援した。また、リメディアル科目の学習到達度テストのとりまとめを行った。

新型コロナウイルス感染症に対応し、オンライン授業実施のための学生のネットワーク環境の整備促進、新入生向けの iPad Pro セットアップマニュアルの作成、C-learning 利用のための準備、6 月以後は対面方式授業のスケジュール調整、筆記試験実施の日程調整をおこなった。

成績が振るわない学生を対象とした、アドバイザー教員による個人面談の支援を行った。来年度の時間割を作成した。

2. 各種ガイダンスの開催

学修が効果的に進むように学生向けに各種ガイダンスを企画し、開催した。具体的には、新入生ガイダンス（4 月 9 日）、在学生ガイダンス（資料配付）を開催した。また、ガイダンスにて、履修ガイドの訂正に関わる文書を配布し、学生に周知した。

3. コース選択

昨年度に定めたコース選択の時期、学生配分ルールにもとづき、2 年生を対象としたコース選択を実施した。具体的には、コース選択説明会（8 月 12 日）、コース希望順位の第 1 回予備調査（Web 回答、8 月 20 日〆切り）、第 2 回予備調査（Web 回答、10 月 30 日〆切り）、そして最終調査（調査用紙での回答、12 月 9 日）を実施し、その後、内定結果を学生に公表した（1 階掲示板、1 月 12 日）。また、コース選択説明会では 3 年次での研究室配属ルールについても説明した。

1 年生について、カリキュラムに関するガイダンス（10 月 26 日）にて、コース選択ルールとスケジュールを説明した。

4. 履修ガイドの校正およびシラバスの確認

次年度の履修ガイドについて、今年度版の内容を確認し、修正する部分を検討し、分かりやすい履修ガイドの作成に努めた。

次年度版シラバスの作成を教員に依頼し、提出されたシラバスの内容を農学部事務職員と共に確認した。学生にとって履修科目の選択時において、参考になり、履修中に授業の流

れが理解できるようなシラバスの作成をおこなった。

5. 全学教務委員会からの情報伝達

全学教務委員会での協議事項および報告事項について、教授会などにて農学部教員へ伝え、必要に応じて協議した。

6. 3つのポリシー定期点検会議

8月5日に外部評価参画者2名、学生委員4名、学科教員6名、農学部事務室1名が参加し、3つのポリシー（AP、CP、DP）点検会議が行われた。教務委員は学科CPについて説明を行い、外部評価参画者との質疑応答を行った。また、学部全体にかかわる意見交換を行った。

7. 学部内教務委員会の開催

教務委員に加え、兼任教員の松岡教授および熊倉講師に助言役として出席いただき、学部内での教務委員会を開催し、上記の各事項について話し合った。開催日等は以下のとおりである。委員会はオンライン会議にて実施した。

第1回	2020年4月23日
第2回	2020年6月25日
第3回	2020年7月16日
第4回	2020年8月20日
第5回	2020年9月17日
第6回	2020年10月15日
第7回	2020年11月19日
第8回	2020年12月17日
第9回	2021年1月21日
第10回	2021年2月25日
第11回	2021年3月25日

3.3. 学生委員会

委員：岡部 繭子、加藤 寛、辻 聡、藤本 正太

活動内容

1. フレッシュマンキャンプに関する事項

2020 年 4 月 7 日～8 日に草津温泉で実施予定であったフレッシュマンキャンプについて準備を進めた。前年度から新 2 年生の有志（6 名）を募り、予算要求、当日のスケジュール立案等、準備を進めていたが、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大により中止となった。

2. 保護者個別面談に関する事項

2020 年 8 月 29 日に、オンライン（一部対面）で保護者個別面談を実施した。本年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、前期に実施された講義の多くがオンラインであったこと、6 月に開催予定であった保護者会が延期されたことなどから、保護者会の開催前に、まずは個別面談を実施した。個別面談の申し込みは 27 件あった。

3. 保護者会（Web）に関する事項

2020 年 11 月 20 日～26 日に農学部保護者会（アクセス回数：128 回）を開催した。開催にあたり、関係委員会の協力のもと、キャリアサポートセンターのスタジオにおいて動画撮影を行い、YouTube で配信を行った。合わせて、Google forms を利用し、質問の受付も行ったが質問はなかった。

4. 学生満足度調査に関する事項

2021 年 1 月 25 日（月）～2 月 12 日（金）に、Google forms を利用した Web 回答形式で学生満足度調査（回答率 72.9%）を実施した。

5. 優秀学生表彰に関する事項

2020 年度より、選考対象学年の学生が在籍するようになったため、農学部での選考方法を定めるとともに、表彰学生の選考を実施した。

3.4. 入試委員会

委員：岡田 早苗、外山 吉治、廣瀬 竜郎、齋藤 文信、(永井 俊匡)

活動内容

1. 2021 年度入学者選抜に関する事項（全学入試委員会と連携）

入学者選抜問題の作成
 総合型選抜の実施
 学校推薦型選抜の実施
 大学入学共通テストの実施
 大学入学共通テスト利用選抜の実施
 一般選抜の実施

2. 2022 年度入学者選抜に関する事項（全学入試委員会と連携）

アドミッションポリシーの定期的な見直し
 総合型選抜の定期的な制度見直し
 学校推薦型選抜の定期的な制度見直し
 大学入学共通テストの定期的な制度見直し
 一般選抜の定期的な制度見直し

3. その他

入学前教育
 オープンキャンパスでの入学者選抜説明

年間の活動のあらまし

	当該年度入試の業務	次年度入試の検討	入学前教育	全学委員会・センターへの提出物	広報活動(入試担当分)
4月	募集要項の内容決定 指定校・特別選抜の内容決定 作問者の決定		プレイスメントテスト	各種決定事項	
5月					
6月	募集要項完成		実施報告会		
7月					
8月			委託業者との打合せ・選定		オープンキャンパス(入試説明)
9月	AO入試			各入試の監督者等	
10月			契約作業	入学前教育実施要項	
11月	推薦		スクーリング準備		
12月		募集要項の内容	スクーリング①	各種決定事項	
1月					
2月	A日程、センター前期				
3月	B日程、センター中期、後期	指定校・特別選抜の内容	成果集計		オープンキャンパス(入試説明)

3.5. 広報委員会

委員：吉積 毅、石岡 大成、石神 靖弘、谷 顕子

活動内容

1. ホームページに関する事項

本学農学部ホームページの「News&Topics」への記事の投稿を受けつけ、随時、更新を行った。記事内容は、お知らせ（テレビ出演、インターンシップ説明会開催など）、イベント・入試（夢ナビ、アグリビジネス創出フェアなど）、地域・研究活動（学会活動での受賞など）であり、2020年度は22件（2021/03/06時点）の記事を掲載した。また、2020/06/10からの本学Twitterの運用開始にあわせて、農学部からの情報発信を行った。

2. 大学案内に関する事項

2.1. 2021年度版大学案内

2021年度版大学案内の農学部紹介ページの作成を行った。

2.2. 大学入試雑誌のインタビュー対応

ベネッセマナビジョン、リクルートスタディサブリの在校生紹介ページのインタビューに対応した。

3. 広報イベントに関する事項

3.1. 大学進学イベントへの参加

夢ナビライブ2020への東京会場、および仙台会場での模擬授業（いずれもオンライン型）に対応した。農学部からは計3名の教員が講師として参加した（2020/10/03・吉積、2020/10/25・岡田・齋藤）。

3.2. Web個別相談への対応

2020/12/13に開催された一般選抜対策講座にてオンライン相談に対応した。

3.3. オープンキャンパスの実施

夏のオープンキャンパスは、2020/07/22-23、2020/08/22-23にWebでのオープンキャンパスが開催され、それに向けて学科紹介および入試関連情報の動画撮影に対応した。4日間の動画の視聴回数はのべ273回であった。

春のオープンキャンパスは、2021/03/13にWebでのオープンキャンパスが開催され、それに伴い、夏に作成した動画の一部修正に対応した。同時開催されたオンラインでの個別相談に対応した。

3.4. 出前授業・ガイダンスへの対応

依頼のあった以下の高校で出前授業の対応を行った。

常磐大学高等学校（2020/10/28・谷）、高崎健康福祉大学高崎高等学校（2020/11/26・吉

積)、文星芸術大学附属高等学校 (2020/12/04・吉積)、高崎市立高崎経済大学付附属高等学校 (2020/12/15・石神)、群馬県立渋川工業高等学校 (2021/02/18・草苅)、正智深谷高等学校 (2021/03/06・岡部)

依頼のあった以下の高校でガイダンスの対応を行った。

高崎健康福祉大学高崎高等学校 (2020/09/09・齋藤、2020/10/26・石岡・吉積)、群馬県立大泉高等学校 (2020/12/04・吉積)

4. FM 群馬「JA グリーン NAVI」のインタビューへの対応

大政農学部長と農学部 2 年生のインタビュー企画に対応した (出演日時: 2020/08/10、2020/08/17、2020/08/24、2020/08/31、各日 12:55～13:00)。

3.6. 図書館運営委員会

委員：大野 英一

活動内容

1. 令和 2 年度図書館資料費等の決算について

農学部設置経費の決算について、設置経費最終年度である令和 2 年度予算は予算通りに執行された。

2. 図書資料の推薦および選定について

今年度購入する図書資料の推薦をお願いし、農学部が購入する図書資料を決定した。

3. 新規希望調査（冊子体、電子ジャーナルおよびデータベース）

農学部の先生方よりご推薦頂いていた電子ジャーナルのうち、下記の 2 誌が採択された。

Food & Function / Journal of Experimental Botany

4. 高崎健康福祉大学紀要第 20 号の発行について

高崎健康福祉大学紀要第 20 号の発行に向けて執筆者の資格確認、および 3 報の校閲を行った。

5. 私の薦める 1 冊の本の執筆依頼について

図書館運営より図書館報「藤波」第 2 巻 20 号の執筆依頼があり、大野が担当し執筆した。

「藤波」は、3 月 1 日付にて発行された。

3.7. 動物実験委員会

委員：川崎秀樹、豊田集、(永井俊匡)

活動内容

1. 動物実験計画書の審査、実施状況の確認に関する事項

本学では、科学的観点、動物愛護の観点、安全確保の観点から、関連法令・指針を踏まえた「高崎健康福祉大学動物実験等の実施に関する規程」（以下、規程とする）を定めている。この規程に則り、本学所属研究者から提出される動物実験計画の1年ごとの審査を、本委員会で行っている。

令和2年度は延べ46件の実験計画を審査した（3月現在審査中の継続課題を含む）。

2. 教育訓練に関する事項

動物実験を本学で実施するために教育訓練を義務付けている。しかし今年度は、新型コロナウイルス感染症による対面授業・対面会議の縮小、および農学部在学生・教職員に新規実験従事者がいなかったことから、教育訓練の実施を見送った。

3. 施設等及び飼養保管状況に関する事項

昨年度、農学部棟1階の「農学部実験動物施設」が規程に適合する飼養保管施設として本学に承認されている（承認番号：第3号）。今年度はさらに運営体制を整備し、「実験動物施設利用要綱」の承認を、全学動物実験委員会から受けた。

令和2年度の使用・飼養動物数は、マウス44匹・ラット8匹であった。

4. 自己点検に関する事項

規程では、動物実験の実施状況に関する自己点検・評価を行い、学長へ報告することを定めている。農学部実験動物施設については、今年度が実質的な運用初年度であり、動物実験委員長長の指示のもとに自己点検作業を進めている（3月現在）。

5. 情報公開に関する事項

動物実験委員会では、動物実験に関する情報を本学ホームページにて公開している。

<https://www.takasaki-u.ac.jp/guide/research/animal-experiment>

3.8. 遺伝子組換え実験安全委員会

委員：吉積 毅、(岡本 健吾)

活動内容

1. 遺伝子組換え実験計画書の審査

本学における遺伝子組換え実験の遵守すべき事項を定め、申請された実験計画の指針に対する適合性の審査、および指導・助言を行っている。本年度は8件の遺伝子組換え実験申請の審査を行い、承認した。また、11件の変更依頼についての手続きを行った。

2. 遺伝子組換え実験従事者講習会の開催

遺伝子組換え実験に従事する者に教育訓練を行い、実験の安全かつ適正な実施をサポートしている。今年度は、新型コロナウイルス感染症による対面授業・対面会議の縮小、および農学部の学生・教職員に新規実験従事者がいなかったことから、遺伝子組換え実験説明会の実施を見送った。

3.9. キャリアサポート委員会

委員：岡田 早苗、荒木 陽一、吉積 毅、谷 顕子

活動内容

キャリアサポート委員会は、学生の卒業後の就職・進路に対してサポートする委員会である。農学部は昨年度に開部し、本年度は1年生と2年生の学生が在籍する。したがって、直近の就職活動に関わる学生はまだいない。とはいえ、現在いる学生も1～2年後には就職活動に真剣に取り組まなければならない。3～4年生がいる学部学科では、2年生は上級生の就活の動向を目の当たりにすることができ、自己のやるべきことも把握できると思われる。しかし本学農学部では見習うべき上級生がらず、就職に対する意識を形成できるか不安なところを感じている。キャリアサポート委員として、2年生学生に就職に対する意識を持ってもらうことが最重要と判断した。将来どのような職種、業種、地域などで就職したいかなどを決める段階にあることを自覚してもらうために、就活セミナーの実施や学生たちが現在持っている就職への意識を把握するためのアンケート調査を実施することに重点を置いた。

また、農学部の分野上、農業関係の公務員を目指すものが2年生の中で17名いることを把握できている。公務員になるためには4年生の夏前後に公務員試験がある。公務員試験に合格するために、早め早めに試験対策に取り組むことが有効であることがわかっている。以上のことより、公務員志望者へは本試験2年前ではあるが、公務員試験対策講座を開講し受講してもらった。

1. 農学部生を対象とした農学部セミナーの開催

2020年10月29日（木）5限に、農学部とキャリアサポートセンターの共同企画による農学部セミナーを開催した。セミナーには群馬県職員（農政副部長様）を講師としてお招きし、県の農業の特色と課題、県庁の仕事、インターンシップ制度についてお話していただいた。当日は60名の参加があり、うち50名が学生で、講演後は活発な質疑応答が行われた。

2. 農学部2年生を対象とした第1回就活ガイダンスの開催

2020年10月14日（水）5限に、農学部2年生向けの第1回就活ガイダンスを企画・開催した。株式会社リクルートキャリアから招請した講師による「就職活動準備講座」、湯本誠一CSC次長による「キャリアサポートセンターの活用方法」などについて、説明が行われた。当日は96名の学生が参加し、欠席者には後日動画配信を行った。

3. 就職に関するアンケート調査の実施

2020年10月に、農学部2年生の必修科目「生命科学基礎実験Ⅱ」（担当：吉積）の中で、

就職に関するアンケート調査を実施した。2年生全員（97名）から回答を得て、集計結果は第7回教授会（2020/11/05）で農学部教員に共有した。

4. 公務員試験対策講座に関する事項

2020年度の公務員試験対策講座への申込者は、農学部2年生が17名（男子：8名、女子：9名）であった。公務員志望者へのサポートとして、キャリアサポートセンター及び図書館に、「農学・農業」分野の過去問題集を配架してもらい、学生への貸出の体制を整えた。

3.10. 保健・衛生委員会

委員：外山 吉治、石岡 大成

活動内容

農学部保健・衛生委員会として、全学共通部分（感染症部会と禁煙部会）と農学部固有部分とに分けて活動した。

1. 全学共通事項

1.1. 感染症部会

新型コロナウイルスに感染した学生および教職員が、学内に入構することによるクラスター発生を防止するために、毎日の体温および体調を専用サイトから報告することにした。また、新型コロナウイルス対策フローなどを公開し、万一体調が優れない場合などの際は、フローを参考にして対応することができるようにした。

1.2. 禁煙部会

2018年7月に改正施行された健康増進法に準じ、2019年7月より、本学キャンパス内が禁煙地区となり、2020年4月から屋内も禁煙となった。このことにより、キャンパス内および近隣地区は例外なく禁煙区域となった。この方針を受けて2020年度は、喫煙者ゼロを目指した禁煙チラシを作製すると共に、2020年3月に示した「高崎健康福祉大学の禁煙化ステップアップ提案書」を実行した。これにより、農学部教職員間の共通認識として、キャンパスで内の禁煙が徹底されることになった。

2. 農学部内固有事項

農学部は学部の特性上、屋外での田畑作業やグリーンハウス内での果菜類の摘果などの作業（農業実習）が実施される。土壌中嫌気性細菌による致死性の高い感染症（破傷風）と昆虫による被害（主にハチ刺されによるアナフィラキシーショック）など、命にかかわる危険性に晒されることが考えられる。学生の安全性を確保するために、以下のことを実施した。

2.1. 破傷風予防対策として

破傷風はワクチン接種により防げる感染症である。同ワクチンは小児時に接種を受ける三種混合ワクチンなどに含まれ、10歳前後で破傷風ワクチンを受けていると思われる。破傷風ワクチンの有効年数はおおよそ10年とされてそのことから、最後に同ワクチンの接種を受けた時期を把握する必要がある。そこで、破傷風の予防接種実施に先立ち、保護者および母子手帳のなどによるワクチン接種歴の確認をお願いした。これらの記録を基に希望した学生に対し破傷風ワクチン接種を実施した（2020/11/26）。

2.2. ハチ刺されによるアナフィラキシーショック対策として

ハチ刺されによるアナフィラキシーショックは、過去にハチに刺されたことがある者が

発症する危険性の高いショックである。したがって、過去にハチに刺されたかどうかを知ることが重要なことであり、その判定には抗体検査が有効である。この抗体検査は、定期健康診断の残血液を利用して実施された。

2.3. 破傷風ワクチン接種とハチ蜂抗体検査についての講義

学生に標記の件についての重要性を知ってもらうために、生物生産学概論 B の講義時に岡田先生がワクチン接種と抗体検査について説明をした（2020/09/29）。

3.11. 地域貢献委員会（高大連携部会、公開授業ワーキンググループ）

委員：辻 聡

活動内容

1. 令和2年度高崎健康福祉大学パートナーシップ・プログラム（附属高校との高大連携）
生物生産学科からは「醤油の官能検査実習」が提案していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。
2. 令和2年度広げる未来プロジェクト～高校・大学連携事業～
（他校を含めた広い意味での高大連携）
新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。
3. 令和2年度理科スクール
新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。
4. 令和2年度公開授業
新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。

3.12. 障がい学生支援委員会

委員：清水 庸、岡部 繭子

活動内容

1. 学生からの支援の「申し出」

2020年度は、学生および学生の保護者からの支援の「申し出」はなかった。ここで、「申し出」とは、学生や学生の保護者から、「配慮支援申し出」の文書が、当委員会へ提出されることを指す。

2. 農学部教員への情報伝達

障がい学生支援委員会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部はメールにて協議した回もあったが、計9回の委員会が開催された。当委員会を通じて、学生へ支援を行う場合は、支援の決定と実施に至るまでのプロセスが決められている。これらの一連の手続きなど、農学部教員へ伝えた。

3. 今後について

当委員会における他の学科からの報告および取り組みを聞いていると、支援をおこなう場合、アドバイザー教員、授業担当教員・卒業研究の指導教員、教務委員会教員そして学科の事務職員など、多くの教職員がサポートに関わっていることが認識された。農学部においても、支援を要する学生がいる場合は、当委員会の教員のみならず、関係する教職員のサポートの下、支援をおこなうことになろう。

3.13. 国際交流委員会

委員：齋藤 文信、大野 英一、橋田 庸一

活動内容

1. 運営委員会の出席

コロナ禍の影響で、第1回から、3回までの国際交流委員会はメール会議形式で行われた。第4回国際交流委員会のみ、対面形式で行われた。

2. 英語版大学案内の作成

国際交流センターによる新英語版大学案内の制作にともない、農学部生物生産学科の英語版の案内部分を担当、作成した。新英語版大学案内は2020年8月に冊子体が完成し、配布された。

3. 学生のグローバル化に関する事項

コロナ禍の影響で2020年度夏実施予定の各海外研修プログラムは中止あるいは延期となった。また、春実施予定の海外研修プログラムについても中止となった。その代替として、Zoom等を用いたonline国際交流が企画、実施された。ドイツ、フランクフルト在住のご夫妻とのOnline交流には、生物生産学科の学生も参加した。

3.14. ボランティア・市民活動支援センター（VSC）運営委員会

委員：橋田 庸一、豊田 集

活動内容

1. VSC 運営に関する事項

運営委員会（計 11 回）に出席した。

2. 学生支援・コーディネートに関する事項

学生の専門性に合わせたボランティア活動の支援を担当した。本年度は、昨年度に立ち上げた企画である、梨園での援農ボランティアの支援を行った。活動内容は以下の通りである。

①除草作業を中心とした農園整備

・日 時：2020 年 8 月 6 日 7:30～10:30

・参加者：学生 9 名（うち、5 名が生物生産学科 2 年生）、引率職員 1 名（吉澤）

②剪定した枝の収集や除草などの農園整備作業

・日 時：2021 年 3 月 1 日 10:00～15:00

・参加者：学生 10 名（うち、3 名が生物生産学科 2 年生）、引率教員 1 名（大家）

※①②いずれも、活動場所は悴田梨園（高崎市下里見町）。

3. 学科としての社会貢献に関する事項

経済的に困窮している学生向けに行う食料配布事業に、附属農場で収穫したトマト、イチゴ、ナス、米、ジャガイモを提供した。

①一人暮らしの学生を対象とした食料配布

・日 時：2020 年 7 月 14・15 日 9:00～17:00

・主 催：学生課および VSC（協力：フードバンク北関東）

・対象者：82 名

②食料支援を受けたいすべての学生を対象とした食料配布

・日 時：2020 年 11 月 5・6 日 9:00～17:00

・主 催：学生課および VSC（協力：フードバンク北関東）

・対象者：53 名

③食料や日常生活用品の確保が難しい学生を対象とした食料配布

・日 時：2021 年 3 月 4・5 日 9:00～17:00

・主 催：学生課および VSC（協力：フードバンク・M 高崎）

・対象者：42 名

3.15. 高崎健康福祉大学農学部スマート農場運営委員会

委員：大政 謙次、荒木 陽一、川崎 秀樹、清水 庸、広瀬 竜郎、吉積 毅、石神 靖弘、岡部 繭子、大野 英一、橋田 庸一

活動内容

1. 高崎健康福祉大学農学部スマート農場運営委員会規程の制定

農学部に設置された農場（以下、「スマート農場」という）の効率的な管理・運営ならびに利用促進を図ることを目的として制定した。

2. 高崎健康福祉大学農学部スマート農場の利用促進に係る細則の制定

スマート農場の利用促進に係る方策について定めた。

3. 圃場使用許可申請の検討

植物生命科学研究室の吉積教授から提出された圃場使用許可申請を検討し、要望のあったビニールハウスの設置場所を決定した（都合により実施されず）。

（参考資料）

令和2年度前期作物園芸実習Ⅰカレンダー

期 日	登校する班	作業内容
5月15日	A・B	【オンライン】 ジャガイモ栽培について
5月20日	A・B	【オンライン】 農業情報の統計解析：1次元データの扱い
5月27日	A・B	【オンライン】 農業情報の統計解析：2次元データの扱い
6月3日	A・B	【オンライン】 農業情報の統計解析：回帰分析
6月10日	A・B	【オンライン】 農業情報の統計解析：統計的検定
6月15日	B	【対面】
6月17日	A	オリエンテーション、施設見学
6月22日	B	【対面】
6月24日	A	畑作業（ナスの整枝・誘引）
6月29日	B	【対面】
7月1日	A	水田作業（田植え）
7月6日	A	【対面】
7月8日	B	畑作業（ジャガイモ収穫）
7月13日	B	【対面】
7月15日	A	畑作業（スイートコーン・ナス収穫）、ドローンのデモ
7月29日	A・B	【オンライン】 サツマイモ栽培について
8月5日	A・B	【オンライン】 ナス栽培について

※予備日は7月6日1、2限と7月20日3、4限

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインまたは対面の場合は50名ずつ別日で実施

令和2年度後期作物園芸実習Ⅱカレンダー

期 日	時 限	登校する班	作業内容(予定)
9月30日	1, 2	B	ダイコン・ホウレンソウ播種と準備
	3, 4	A	
10月 7日			予備日
10月14日	3, 4	A・B	GIS とリモートセンシングデータの利用法
10月21日	1, 2	B	イネ収穫
	3, 4	A	
11月 4日	1, 2	B	ダイコン・ホウレンソウ間引き
	3, 4	A	
11月11日	1, 2	B	サツマイモ収穫
	3, 4	A	
11月18日			予備日
11月25日	3, 4	A・B	WebGIS① 地図情報
12月 2日	3, 4	A・B	WebGIS② 自然環境情報
12月 9日	3, 4	A・B	WebGIS③ リモートセンシングデータ解析
12月16日	1, 2	B	イネ収量調査①
	3, 4	A	
12月23日	1, 2	B	ダイコン・ホウレンソウ収穫①
	3, 4	A	
1月 6日	1, 2	B	イネ収量調査②
	3, 4	A	
1月13日	1, 2	B	ダイコン・ホウレンソウ収穫②
	3, 4	A	



田植えの様子



ジャガイモ収穫の様子



イチゴランナー受けの様子

4. 農学部セミナー

農学と社会の関わりを学生が知り、学ぶ機会として、2020年度は下記のとおり、2回の農学部セミナーを開催した。

第1回農学部セミナー

「求む！群馬県農業の応援団員！～皆さんは、まだまだ、群馬県農業の魅力を知らない！～」

日 時：2020年10月29日（火）16:30～18:00

場 所：10号館2階201号室

講演者：群馬県農政部副部長 倉澤政則 氏

講演内容：講演では、群馬県の農業の概要をお話いただいたのち、群馬県庁の農政部の組織と仕事の内容、それを行う職員の態様（行政、普及、研究等）、ならびに職員になるために受験しなければならない試験の種類、出題される試験問題の種類などをお話いただいた。最後に、3年生前期で受講するインターンシップの配属先などのお話があった。

参加者数：学生 50名（内オンライン6名） 教員 10名 合計 60名

第2回農学部セミナー・国際交流センター共同開催

「施設園芸におけるスマート農業技術

～令和元年度スマート農業実証プロジェクトの成果から～」

日 時：2020年12月17日（木）16:30～18:00

場 所：10号館2階201講義室

講演者：株式会社誠和 取締役 大出浩睦 氏

講演内容：初めに株式会社誠和の紹介があり、園芸施設では一般的になっている「自動カーテン装置」の国内シェアが70%あり国内1位であった。続いて、令和元年から2年間実施したスマート農業プロジェクトの成果の紹介があり、統合環境制御システムの活用により、系列農場で、大玉トマトにおいて62t/10a、キュウリにおいて50t/10a、パプリカにおいて32t/10aを達成したことが報告された。

参加者数：学生 40名 教員 10名 合計 50名

第1回 農学部セミナー

来たれ！

公務員を目指す諸君

「求む！ 群馬県農業の応援団員！」

～皆さんは、まだまだ、群馬県農業の魅力を知らない！～

- ・群馬県農業の特色
- ・群馬県農政部の組織と仕事
- ・職員採用試験について 等

群馬県農政部 副部長 倉澤政則氏

日時：令和2年10月29日(木)18:30～19:00

会場：10号館201教室

【お問い合わせ】

農学部作物園芸システムコース 荒木 araki-y@takasaki-u.ac.jp
キャリアサポートセンター 湯本 yumoto@takasaki-u.ac.jp

第2回 農学部セミナー

施設園芸におけるスマート農業
技術を勉強してみませんか。



施設園芸におけるスマート農業技術

～令和元年度スマート農業実証プロジェクトの成果から～

株式会社誠和 取締役 大出浩睦氏

日時：令和2年12月17日(木)16:30～18:00

会場：10号館201教室

【お問い合わせ】

農学部作物園芸システムコース 荒木 araki-y@takasaki-u.ac.jp
キャリアサポートセンター 湯本 yumoto@takasaki-u.ac.jp

5. 個人活動報告

5.1. 生命科学コース

外山 吉治（とやま よしはる Yoshiharu Toyama）

【研究室】基礎生命科学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

物理学基礎、生物生産概論 B、有機化学、生物化学、生命科学基礎実験I、
生命科学基礎実験II

【学内委員会活動】

入試委員会（2019.04-現在）、保健・衛生委員会（2019.04-現在）、
健康管理センター運営委員会（2020.04-現在）

【研究業績】

・原著論文

1. Toyama Y, Tamegai D, Yoshiba K, Dobashi T. Simultaneous measurements of dynamic modulus and turbidity and effects of calcium ions on the process of thrombin-induced fibrin gel formation. J. Biorheol., 34: 71-78. 2020
2. Kawabata A, Yamamoto T, Shinoda H, Yoshiba K, Toyama Y, Tanaka S, Dobashi T. Crossover of Rate-Limiting Process in Plasma Gel Growth by Contact with Source of Gelator. Gels, 7:1-13. 2021

・総説・解説など

1. 篠田啓貴, 川端彬嗣, 為我井大輔, 吉場一真, 山本隆夫, 土橋敏明, 外山吉治, 田中進. 血液凝固因子との接触による血漿の凝固ダイナミクス-血小板の効果. バイオレオロジー学会誌. 34 : 33. 2020

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

太田高等看護学院非常勤講師

・学会活動

日本バイオレオロジー学会 監事（2013-現在）、JBR 編集委員（2015-現在）、
バイオレオロジー・リサーチ・フォーラム運営委員（2013-現在）

岡本 健吾（おかもと けんご Kengo Okamoto）

【研究室】基礎生命科学

【職名】講師

【学内教育活動】

・担当授業科目

農学部：化学基礎、生物学、生物生産学概論 B

薬学部：遺伝学、生物の発生と進化、生物学基礎 II、生物系薬学実習、基礎生物学実習

・学内行事の担当

遺伝子組換え実験安全講習会（2020/04）、保護者会（2020/06）

【学内委員会活動】

薬学部：遺伝子組換え実験安全委員会（安全主任）（2008.04-現在）、

広報委員会（2018.04-現在）、薬学学修支援センター（2015.04-現在）

【研究業績】

・原著論文

1. 野崎真史，岡本健吾，片山豪．実験をととして生徒が学ぶ生物授業の実践～探究的能力の育成を目指して～．日本科学教育学会第 44 回年会論文集．2020．

2. 岡本健吾，森哲哉，田中祐司，本間成佳．生物学におけるリメディアル教育の履修による学生の意識変化と学習到達度への影響．高崎健康福祉大学薬学部教育論文．2020．

・講演・学会発表

1. 野崎真史，岡本健吾，片山豪．実験をととして生徒が学ぶ生物授業の実践～探究的能力の育成を目指して～．日本科学教育学会第 44 回年会．2020/08/25-27．

2. 野崎真史，岡本健吾，片山豪．カイコを用いた高等学校における生物の実験教材の開発～連鎖および進化の単元において～．日本動物学会第 91 回大会．2020/09/4-5．

3. 岡本健吾，森哲哉，田中祐司，本間成佳．生物学におけるリメディアル教育の履修による学生の意識変化と学修到達度への影響．日本薬学会 141 年会．2021/3/26-29．

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

出前授業 高崎健康福祉大学高崎高校「遺伝子で病気を治す」（2020/11/16）

・学会活動

日本分子生物学会、日本生化学会、日本薬学教育学会

川崎 秀樹（かわさき ひでき Hideki Kawasaki）

【研究室】 生命工学

【職名】 教授

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

農業生産学概論 B、分子生物学、遺伝子工学、基礎生命科学実験 I、基礎生命科学実験 II

・ 学内行事の担当

農学部 3 つのポリシー点検会議（2020/08/05）

【学内委員会活動】

FD・自己点検委員会（2019.04-現在）、動物実験委員会（2019.04-現在）、
学部運営委員会（2021.01-現在）

【研究業績】

・ 原著論文

1. Gao Y, Liu Y-C, Jia S-Z, Liang Y-T, Tang Y, Xu Y-S, Kawasaki H, Wang H-B. Imaginal disc growth factor maintains cuticle structure and controls melanization in the spot pattern formation of *Bombyx mori*. PLOS GENETICS 16, e1008980. 2020

・ 総説・解説など

1. 川崎秀樹. 巻頭言 翅原基とともに 40 年—蚕糸，研究，教育について思うこと．蚕糸・昆虫バイオテック． 89：123-124． 2020．

藤本 正太（ふじもと しょうた Shota Fujimoto）

【研究室】 生命工学

【職名】 助教

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生物生産学概論 B、生命科学基礎実験I、生命科学基礎実験II、遺伝子工学

・ 学内行事の担当

オンライン個人面談（2020/08/29）

・ セミナー開催

群馬県と高崎健康福祉大学の共同研究に向けた交流会「遺伝子組換えカイコを利用した物質生産の研究」（2020/09/08）

【学内委員会活動】

学生委員会（2020.04-現在）、地域貢献委員会（2020.04-現在）

【研究業績】

・ 講演・学会発表

1. 高橋杏佳，磯貝壮佑，藤本正太，岩永将司．タイ由来カイコ核多角体病ウイルス BmNPV Ta 株の解析．令和3年度蚕糸・昆虫機能利用学術講演会（日本蚕糸学会第91回大会）．オンライン開催．2021/03/19-20．

・ 外部予算獲得

1. 科学研究費 研究活動スタート支援（2020-2021）

【学外活動・社会貢献】

・ 学会活動

日本蚕糸学会（2014-現在）、日本分子生物学会（2014-現在）、昆虫病理研究会（2016-現在）

吉積 毅（よしづみ たけし Takeshi Yoshizumi）

【研究室】植物生命科学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 B、生命科学基礎実験 I、生命科学基礎実験 II、植物生理学

・学内行事の担当

保護者会 web 面談（2020/08/29）

Web 個別相談会（2020/12/13）

春のオープンキャンパス個別相談会（2021/03/13）

【学内委員会活動】

広報委員（2019.04-現在）、遺伝子組換え実験委員（2019.04-現在）、

キャリアサポート委員（2020.07-現在）、学部運営委員会（2021.01-現在）

【研究業績】

・原著論文

1. Kazusato Oikawa, Takuto Imai, Kiminori Toyooka, Takeshi Yoshizumi, Kazuya Ishikawa, Yutaka Kodama, Keiji Numata. Mitochondrial movement during its association with chloroplasts in *Arabidopsis thaliana*. Commun. Biol. 4:1-13. 2021

・外部予算獲得

1. NEDO（継続）
2. 科研費挑戦的研究萌芽（新規）
3. 国内化学企業 2 社（継続）

・その他（特許）

1. 核酸を植物細胞のゲノムへ導入する方法

発明人：木村光宏、吉積毅、中村史

出願者：学校法人高崎健康福祉大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所

出願番号：特願 2021- 13616

出願日：2021 年 1 月 29 日

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

夢ナビ（オンライン模擬講義） 仙台会場（2020/10/03）、

出前授業（2020/11/16 健大付属高崎高校、2020/12/14 文星芸術大学付属高校）、

ガイダンス（2020/10/26 健大付属高崎高校、2020/12/08 群馬県立大泉高校）

・学会活動

日本植物バイオテクノロジー学会

・マスコミ広報

FM 群馬学生インタビュー対応、大学入試取材対応（2 件）

・その他

アグリビジネス創出フェア 2020 Web 面談対応（2020/11/11-13）

加藤 寛（かとう ひろし Hiroshi Katoh）

【研究室】植物生命科学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産概論 B、植物保護学、生命科学基礎実験I、生命科学基礎実験II

・学内行事の担当

オンライン個人面談（2020/08/29）

オンライン保護者会（2020/11/19）

【学内委員会活動】

学生委員会（2019.04-現在）、教務委員会（2019.04-現在）、年報委員会（2019.04-現在）、
インターンシップ委員会（2020.04-現在）

【研究業績】

・原著論文

1. Nagaoka-Nakazono E, Uechi N, Katoh H, Fujikawa T, Miyata S, Furukawa T, Asakawa T, Sasaki M, Kuwahara R, Kim O, Iwanami T. Limited Occurrence of Tristeza in Yuzu and Possible Tristeza-free Cultivation in Northernmost Commercial Yuzu-producing Areas of Japan. Japan Agricultural Research Quarterly:54(4), 307-316. 2020.

・外部予算獲得

1. 受託研究 東日本電信電話株式会社（2020-現在）

【学外活動・社会貢献】

・学会活動

日本植物病理学会 会員（2003-現在）

・その他

アグリビジネス創出フェア 2020 「イチゴ病害早期検出技術の開発」（オンライン、2020/11/11-13）

永井 俊匡（ながい としただ Toshitada Nagai）

【研究室】動物生命科学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

農学部：生物生産学概論 B、生命科学基礎実験 I、生命科学基礎実験 II、動物生理学
健康福祉学部：化学、有機化学 I、有機化学 II、基礎栄養学、基礎栄養学実験、
卒論事前指導、3 年生国家試験対策、特別講座、卒業研究、食品栄養学特論、
栄養学特論

・学内行事の担当

入学前教育スクーリング オンライン（2020/12/19）

【学内委員会活動】

健康福祉学部：入試委員会（2010.04-現在）、遺伝子組換え実験安全委員会（2010.04-現在）、
動物実験委員会（2018.04-現在）

【研究業績】

・原著論文

1. Noguchi-Shinohara M, Ono K, Hamaguchi T, Nagai T, Kobayashi S, Komatsu J, Samuraki-Yokohama M, Iwasa K, Yokoyama K, Nakamura H, Yamada M. Safety and efficacy of Melissa officinalis extract containing rosmarinic acid in the prevention of Alzheimer's disease progression. Sci. Rep. 10: 18627. 2020

・総説・解説など

1. 永井俊匡, 咀嚼が脳機能に与える分子論的变化. アグリバイオ. 4 : 1242-1246. 2020

・講演・学会発表

1. 李善美, 安岡顕人, 永井俊匡, 斎藤芳和, 阿部啓子, 朝倉富子. 幼若期における咀嚼刺激が記憶に与える影響. 日本農芸化学会 2021 年度大会. 3E05-12. 2021.
2. 永井俊匡, 齊藤美佳, 清水愛恵, 斎藤芳和, 安岡顕人, 阿部啓子, 朝倉富子. 長期間の咀嚼は視床下部の遺伝子発現の変化と血圧の低下をもたらす. 日本農芸化学会 2021 年度大会. 3E05-13. 2021（トピックス賞受賞）.

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 C（2018-2020）

【学外活動・社会貢献】

・学外委員会

日本学術振興会 産学協力委員会「R021 食と未病マーカー委員会」委員

・学会活動

日本農芸化学会 会員（2003-現在）、日本栄養・食糧学会 会員（2016-現在）、
日本食品科学工学会 会員（2019-現在）

・その他

食品栄養学専攻 修士論文 主査 1 件

豊田 集（とよだ つどい Tsudoi Toyoda）

【研究室】動物生命科学

【職名】助手

【学内教育活動】

・担当授業科目

調理学実習、生命科学基礎実験I、生命科学基礎実験II

【学内委員会活動】

ボランティア・市民活動支援センター運営委員会（2019.04-現在）、

動物実験委員会（2019.04-現在）

【研究業績】

・原著論文

1. Takase T, Toyoda T, Kobayashi N, Inoue T, Ishijima T, Abe K, Kinoshita H, Tsuchiya Y, Okada S. Dietary iso- α -acids prevent acetaldehyde-induced liver injury through Nrf2-mediated gene expression. *PLOS ONE* 16(2): e0246327. 2020

【学外活動・社会貢献】

・学会活動

日本農芸化学会 会員（2010-現在）、日本栄養・食糧学会 会員（2012-現在）

5.2. 作物園芸システムコース

廣瀬 竜郎（ひろせ たつろう Tatsuro Hirose）

【研究室】作物学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A、作物学I、作物園芸実習I、作物園芸実習II

【学内委員会活動】

入試委員会（2019-現在）、研究倫理委員会（2019-現在）

【研究業績】

・講演・学会発表

1. 橋田庸一，津久井啓多，篠原和典，山田文典，岡部繭子，廣瀬竜郎．コンニャクのグルコマンナン代謝関連遺伝子の網羅的解析．日本作物学会第 251 回講演会．2021.

【学外活動・社会貢献】

・学会活動

日本作物学会評議員、同英文誌編集副委員長（2020-現在）

・マスコミ広報

群馬テレビ JA みどりの風「次世代農業へつなぐスマート農場 健大農学部」（2020/10/19）

岡部 繭子（おかべ まゆこ Mayuko Okabe）

【研究室】作物学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A、作物園芸実習I、作物園芸実習II、栽培管理学

・学内行事の担当

保護者個別面談（2020/08/29）

オンライン保護者会（2020/11/20-26）

【学内委員会活動】

学生委員会（2019.04-現在）、障がい学生支援委員会（2019.04-現在）、

危機管理委員会（2019.04-現在）、インターンシップ運営委員会（2020.04-現在）、

学年担任（2019.04-現在）、農場運営委員会（2020.04-現在）

【研究業績】

・原著論文

1. 高田優紀，馬場正，山口正己，岡部繭子，柴田隆喜，市田大樹，三尋木健史．農流技研会報．32：10-13．2021．

・講演・学会発表

1. 橋田庸一，津久井啓多，篠原和典，山田文典，岡部繭子，廣瀬竜郎．コンニャクのグルコマンナン代謝関連遺伝子の網羅的解析．日本作物学会第 251 回講演会．2021．

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

出前授業 正智深谷高校「国産キャベツを一年中食卓へ～高冷地農業の役割～」(2021/03/06)

・学会活動

日本作物学会、園芸学会 園芸学研究編集委員（2020-現在）、食品科学工学会、

北陸作物・育種学会、農産物流通技術研究会、日本作物学会関東支部評議員（2019-現在）

・マスコミ広報

群馬テレビ JA みどりの風「次世代農業へつなぐスマート農場 健大農学部」(2020/10/19)

橋田 庸一（はしだ よういち Yoichi Hashida）

【研究室】作物学

【職名】助教

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A、作物園芸実習I、作物園芸実習II

【学内委員会活動】

ボランティア・市民活動センター運営委員会（2019.04-現在）、

国際交流委員会（2019.04-現在）

【研究業績】

・総説・解説など

1. 橋田庸一. イネの葉におけるショ糖合成制御機構の解明. アグリバイオ. 4:559-561. 2020.
2. 橋田庸一. イネの葉におけるショ糖合成制御機構の解明（再掲）. アグリバイオ. 4:1196-1198. 2020.

・講演・学会発表

1. 栗田悠子, 滝本裕則, 神谷麻梨, 橋田庸一, 鹿島誠, 手塚あゆみ, 七夕高也, 永野惇. 自作小型培養庫を用いた植物季節応答の再現. 日本植物生理学会第 62 回年会. 2021.
2. 橋田庸一, 津久井啓多, 篠原和典, 山田文典, 岡部繭子, 廣瀬竜郎. コンニャクのグルコマンナン代謝関連遺伝子の網羅的解析. 日本作物学会第 251 回講演会. 2021.

・外部予算獲得

1. 科学研究費 若手研究（2019-2021）

【学外活動・社会貢献】

・学会活動

日本作物学会 広報委員会（2019-現在）若手・男女共同参画ワーキンググループ（2020-現在）、
日本植物生理学会 会員

・マスコミ広報

群馬テレビ JA みどりの風「次世代農業へつなぐスマート農場 健大農学部」（2020/10/19）

荒木 陽一（あらき よういち Yoichi Araki）

【研究室】園芸学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A、園芸学、作物園芸実習I、作物園芸実習II

・学内行事の担当

令和2年度公開講座（中止）、令和2年度避難訓練（中止）

・セミナー開催

第1回農学部セミナー「群馬の農業を応援してみませんか」（2020/10/29）

第2回農学部セミナー「施設園芸におけるスマート農業技術」（2020/12/17）

【学内委員会活動】

危機管理委員会委員（2019.04-現在）、地域連携委員会委員（2019.04-現在）、

キャリアサポート委員会委員（2019.04-現在）、

子ども・家族支援センター委員会委員（2019.04-現在）

【研究業績】

・総説・解説など

1. 荒木陽一. 書評「農業気象・環境学第3版」. 農業電化. 74(3): 2. 農業電化協会. 2021.

・講演・学会発表

1. 荒木陽一, 石神靖弘, 大石高也, 大政謙次. 蒸発潜熱を利用した紙ポット育苗イチゴの花芽分化促進技術の開発. 園学研別1,'21, P066. 2019.

【学外活動・社会貢献】

・学外委員会

農林水産省スマート農業実証プロジェクト専門 PO（2019-2020）、農林水産省スマート農業実証プロジェクト終了時審査委員（2020）、農林水産省 R3 スマート農業実証プロジェクト第1次書面審査委員（2020）、農林水産省イノベーション創出強化研究推進事業評議委員（2020）、埼玉県農業技術センター研究評価委員会委員（2020）

・マスコミ広報

群馬テレビ JA みどりの風「次世代農業へつなぐスマート農場 健大農学部」（2020/10/19）

・その他

令和2年度研修講座「高校専門教育研修講座」（群馬県、2020/10/16）

令和2年度高崎・安中地域イチゴ研修会「イチゴ最近の話題-イチゴの品種、生産技術、輸出状況」（2020/11/06）

農林水産省スマート農業技術開発・実証プロジェクト「施設園芸コンテンツ連携によるトマトのスマート一貫体系の実証」成果報告会パネラー（2021/02/09）

石神 靖弘 (いしがみ やすひろ Yasuhiro Ishigami)

【研究室】園芸学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A、園芸システム制御学、作物園芸学実習I、作物園芸学実習II

【学内委員会活動】

FD・自己点検委員会 (2019-現在)、広報委員会 (2019-現在)

【研究業績】

・原著論文

1. Tatsuhiko IKEDA, Yasuhiro ISHIGAMI, Eiji GOTO The effect of CO₂ enrichment in a closed greenhouse equipped with NIR-reflecting film and EHP cooling on the yield and quality of tomato fruits during the summer season. Journal of Agricultural Meteorology 76(2): 104 – 110.
2. Yuta Ohashi, Yasuhiro Ishigami, Eiji Goto. Monitoring the Growth and Yield of Fruit Vegetables in a Greenhouse Using a Three-Dimensional Scanner. Sensors (Basel, Switzerland) 20(18)
3. Ji-Yoon LEE, Akimasa SHIMANO, Shoko HIKOSAKA, Yasuhiro ISHIGAMI, Eiji GOTO. Effects of photosynthetic photon flux density and light period on growth and camptothecin accumulation of *Ophiorrhiza pumila* under controlled environments. Journal of Agricultural Meteorology 76(4) 180 – 187.
4. Yuta OHASHI, Taiki TORII, Yasuhiro ISHIGAMI, Eiji GOTO. Estimation of the light interception of a cultivated tomato crop canopy under different furrow distances in a greenhouse using the ray tracing. Journal of Agricultural Meteorology 76(4) 188 – 193.
5. Kota Saito, Yasuhiro Ishigami, Eiji Goto. Evaluation of the Light Environment of a Plant Factory with Artificial Light by Using an Optical Simulation. Agronomy 10(11) 1663 – 1663.
6. S. Hikosaka, K. Inoue, Y. Ishigami, E. Goto. Development of an automatic water-stress control system by image analysis for the production of high-quality tomato. Acta Horticulturae (1296) 1027 – 1034.
7. Y. Ohashi, Y. Ishigami, E. Goto. Estimation of the light environment inside a tomato canopy in a greenhouse by using the ray tracing method. Acta Horticulturae (1296) 93 - 100

・講演・学会発表

1. 荒木陽一, 石神靖弘, 大石高也, 大政謙次. 蒸発潜熱を利用した紙ポット育苗イチゴの花芽分化促進技術の開発. 園芸学会令和3年春季大会 (オンライン, 2021.3.24-30)
2. Daiyu Ito, Md Rakibul Hassan, Sachinobu Ishida and Yasuhiro Ishigami. The effect of long-term elevated CO₂ concentration on the carbon budget of apple population. International Symposium on Agricultural Meteorology 18-31 March 2021 Online conference.

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 C (2019-2021)

【学外活動・社会貢献】

・学外委員会

出前授業 高崎経済大学付属高校 (2020/12/15)

・学会活動

生物環境工学会 理事・編集委員、農業情報学会 理事、生態工学会 理事

・マスコミ広報

群馬テレビ JA みどりの風「次世代農業へつなぐスマート農場 健大農学部」(2020/10/19)

大政 謙次（おおまさ けんじ Kenji Omasa）

【研究室】 農業情報システム学

【職名】 学部長・学科長・教授

【受賞】 日本リモートセンシング学会論文賞（2020/05/13）

日本農業気象学会名誉会員（2021/03/27）

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A、作物園芸実習I、作物園芸実習 II

・学内行事の担当

学部長・学科長

【学内委員会活動】

農学部長、生物生産学科長、法人評議員会、大学運営協議会

【研究業績】

・原著論文

1. Li Y, Sun Z, Lu S and Omasa K. Improvement of leaf chlorophyll content estimation using spectral indices from non-polarized reflectance factor in the laboratory and field. *IEEE J. Sel. Top. Appl. Earth Obs. Remote Sens.* 13:3669-3682. 2020
2. Lu X, Ono E, Lu S, Zhang Y, Teng P, Aono M, Shimizu Y, Hosoi F and Omasa K. Reconstruction method and optimum range of camera-shooting angle for 3D plant modeling using a multi-camera photography system. *Plant Methods.* 16:118:1-16. 2020
3. Li X, Sun Z, Lu S, and Omasa K. A multi-angular invariant spectral index for the estimation of leaf water content across a wide range of plant species in different growth stages. *Remote Sens. Environ.* 253(112230):1-19 2021
4. Liu Y, Hatou K, Aihara T, Kurose S, Akiyama T, Kohno Y, Lu S, and Omasa K. A robust vegetation index based on different UAV RGB images to estimate SPAD values of naked barley leaves. *Remote Sens.* 13, 686: 1-21. 2021
5. Saito Y and Omasa K. Remote sensing of plant fluorescence spectrum and lifetime by laser-induced fluorescence lidars J. *Remote Sens Soc. Jpn*, 41:S1-S10. 2021

・著書

1. 大政謙次. はじめに 8.4 リモートセンシング. 大政謙次他鑑編『農業気象・環境学 第3版』朝倉書店 i-ii, 180-185. 2020.
2. 清水庸, 大政謙次. 8.5 農業気象メッシュデータと環境情報解析. 大政謙次他鑑編『農業気象・環境学 第3版』朝倉書店. 185-191. 2020.
3. 大政謙次. 発刊にあたって, 第7章 情報化社会における持続可能な社会構築. 高度情報化社会の都市と農村における農業の多様性と持続的発展に向けて. 大政謙次他編『学術会議叢書 27 持続可能な社会への道—環境科学から目指すゴール—』日本学術協力財団. 5-7: 249-263. 2020.

・総説・解説など

1. 大政謙次. 高崎健康福祉大学農学部—地域との連携と人材育成を目指して. TOWA 経済レポート 7月号(379): 12. 2020.
2. 斎藤保典, 大政謙次. レーザー励起蛍光ライダーによる植物蛍光のスペクトルおよび寿命のリモートセンシング. 測量. 11:14-17. 2020.
3. Omasa K. Need for mechanization of agriculture with environmental protection in developing countries. *AMA* 51(4) Autumn: 55. 2020.

・報告書など

1. 大政謙次. 日本農学アカデミー第 11 期の開始に当たって. 農学アカデミー便り. 118 : 1. 2020.
2. 大政謙次. 思い出～出会いの大切さ. 愛媛大学農学部創立 120 周年記念誌. 58. 2020.
3. 大政謙次. 農学部生物生産学科の活動報告. 健大通信. 34(秋) : 5. 2020.
4. 大政謙次. 第 11 期の運営体制と活動のご報告. 日本農学アカデミー会報. 34 : 1-3. 2020.
5. 大政謙次. 新年のご挨拶. 農学アカデミー便り. 123 : 1. 2021.

・講演・学会発表

1. 野田響, 大政謙次, 彦坂幸毅, 市井和仁, 小林秀樹, 加藤知道, 村岡裕由. 陸域植生SIF/PRIの高分解能観測衛星の開発. JpGU-AGU Joint Meeting 2020 (オンライン, 2020/07/12-16)
2. 迫田和馬, 矢守航, 大政謙次, 青野光子. イネ多収品種”タカナリ”はオゾンストレスに弱い?. 日本作物学会第250回講演会 (オンライン, 2020/09/03-4)
3. 大政謙次. 植物機能リモートセンシングとその応用. 令和2年度群馬県と高崎健康福祉大学の共同研究に向けた交流会. 高崎健康福祉大学 (2020/09/08)
4. 大政謙次. (農学概論講義) 総合科学としての農学: 細胞計測～地球観測. 夢ナビライブ 2020 Web WEEK 東京会場 (オンライン, 2020/10/21-27)
全国農学系学部長会議ホームページ <https://douga.yumenavi.info/nogaku/>
5. 荒木陽一, 石神靖弘, 大石高也, 大政謙次. 蒸発潜熱を利用した紙ポット育苗イチゴの花芽分化促進技術の開発. 園芸学会令和3年春季大会 (オンライン, 2021/03/24-30)

・外部予算獲得

1. 科学研究費 国際共同研究強化 B (分担) (2018-2021)
2. 共同研究 2 社 (2019-2020)

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

北京大学環境エネルギー学院客座教授、東北師範大学客座教授、愛媛大学客員教授、東京大学農学部非常勤講師、愛媛大学農学部非常勤講師
夢ナビライブ2020Web Week東京会場 全国農学系学部長会議：農学概論「総合科学としての農学：細胞計測～地球観測」 (2020/10/21-27)

・学外委員会

日本学術会議連携会員・環境科学分科会委員長・農業生産環境工学分科会副委員長、国立環境研究所客員研究員、群馬県農政審議会会長、(公財)日本海洋科学振興財団評議員、(一社)学術著作権協合理事、(一社)日本国際交流発展促進協合理事、公益信託エスベック地球環境研究・技術基金運営委員

・学会活動

日本農学アカデミー会長、日本農学会副会長・理事、日本農業工学会名誉顧問・理事、農業情報学会名誉会長・理事、日本生物環境工学会名誉副会長・理事・特別名誉会員、生態工学会名誉会員・特別理事、日本農業気象学会名誉会員・顧問、酸性雨研究会顧問、光合成学会幹事、日本リモートセンシング学会評議員、もったいない学会評議員、(財)遺伝学普及会 雑誌「遺伝」編集委員、GIS expert emeritus、AGRI-Bioscience Monographs (AGBM) editor、Remote Sensing guest editor、The XX CIGR World Congress 2022 organizing committee member. 日本生命科学アカデミー会員

・マスコミ広報

群馬テレビ JA との連携協定 (2020/06/25) タ、夜ニュース (news eye8)
上毛新聞 JA との連携協定 (2020/06/26) 18 面
FM gunma JA グループナビ【1 週目：農学部の紹介/JA との提携について】(2020/08/10)、
【2 週目：スマート農場について】(2020/08/17) 担当：揚妻由璃子
群馬テレビ JA みどりの風「次世代農業へつなぐスマート農場 健大農学部」(2020/10/19)
日本農業新聞 健大新設農学部のスマート農業の紹介 (群馬テレビ 19 日放送) (2020/10/13)
アグリビジネス創出フェア Web 面談 (2020/11/13-17)

清水 庸（しみず よう Yo Shimizu）

【研究室】農業情報システム学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

農業情報システム学、作物園芸実習Ⅰ、作物園芸実習Ⅱ、生物生産学概論 A

・学内行事の担当

夏の Web オープンキャンパス 生物生産学科の学科紹介（2020/07/23-24, 2020/08/22-23）

春の Web オープンキャンパス 生物生産学科の学科紹介（2021/03/13）

コース選択の実施（2 年生、2020/08/12-2021/01/12）

生物生産学科 FD における教務関連の報告（2020/10/01）

カリキュラム関連ガイダンスの実施（1 年生、2020/10/26）

オンライン保護者会（Web 動画、2020/11/20-2020/11/26）

【学内委員会活動】

新型コロナウイルス感染症対策本部・教務部会（2020.04-現在）、

教務委員会（2019.04-現在）、障がい学生支援委員会（2019.04-2021.03）、

学部運営委員会、大学院設置準備委員会、農場運営委員会（いずれも 2020 年度）

【研究業績】

・原著論文

1. X. Lu, E. Ono, S. Lu, Y. Zhang, P. Teng, M. Aono, Y. Shimizu, F. Hosoi and K. Omasa. Reconstruction method and optimum range of camera-shooting angle for 3D plant modeling using a multi-camera photography system. Plant Methods 16, 118. 2020.

・著書

1. 清水庸, 大政謙次. 農業気象メッシュデータと環境情報解析. 大政謙次他鑑編『農業気象・環境学 第3版』朝倉書店. 東京. 185-191. 2020.

・外部予算獲得

1. 科学研究費・基盤研究 B（2017-2020）（分担）「多方向ライダー計測による植物群落 3 次元計測法並びに植物構造・生理統合解析法の開発（研究代表者：細井文樹）」
2. 共同研究（2019-現在）「チコリの周年栽培管理技術の確立」（株式会社ぐんたね, みかど協和株式会社）

【学外活動・社会貢献】

・学会活動

農村計画学会 評議員（2008-現在）

農業情報学会 副会長（2017-現在）、理事（2002-現在）、リモートセンシング部会・部会長（2019-現在）、大会実行委員会・副委員長（2019-現在）、編集委員会（2003-現在）

生態工学会 役員（2017-現在）

日本農業気象学会 リモートセンシング・GIS 研究部会・幹事（2001-現在）

・マスコミ広報

群馬テレビ JA みどりの風「次世代農業へつなぐスマート農場 健大農学部」（2020/10/19）

大野 英一（おおの えいいち Eiichi Ono）

【研究室】 農業情報システム学

【職名】 講師

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生物生産学概論 A、作物園芸実習I、作物園芸実習II

【学内委員会活動】

図書館運営委員会（2020.04-現在）、国際交流委員会（2020.04-現在）、
インターンシップ委員会（2020.04-現在）、農場運営委員会（2020.04-現在）

【研究業績】

・ 原著論文

1. Lu X, Ono E, Lu S, Zhang Y, Teng P, Aono M, Shimizu Y, Hosoi F, Omasa K. Reconstruction method and optimum range of camera-shooting angle for 3D plant modeling using a multi-camera photography system. Plant Methods. 16: 118, 2020.

・ 著書

1. Rodriguez JP, Ono E, Abdullah A. M. S., Choukr-Allah R, Abdelaziz H. Cultivation of quinoa (*Chenopodium quinoa*) in desert ecoregion. In: “Emerging Research in Alternative Crops” (eds. by Abdelaziz H, Choukr-Allah R, Ragab R), Springer, Cham, p 145-161. 2020.

【学外活動・社会貢献】

・ 学外委員会

NEDO 委託事業推進委員会「微細藻類由来バイオジェット燃料生産の産業化と CO₂利用効率の向上に資する研究拠点及び基盤技術の整備・開発」委員（2021-現在）

・ 学会活動

The American Society of Agricultural and Biological Engineers (ASABE)会員（1996-現在）、
日本生物環境工学会会員（2007-現在）

・ マスコミ広報

群馬テレビ JA みどりの風「次世代農業へつなぐスマート農場 健大農学部」（2020/10/19）

・ その他（社会貢献）

群馬県との連携協定「群馬県における農業振興及び6次産業化推進に関わる連携協定」に基づく群馬県農政部への気象観測データの定期的な提供（2020-現在）

5.3. フードサイエンスコース

松岡 寛樹（まつおか ひろき Hiroki Matsuoka）

【研究室】食品学

【職名】教授

【受賞】一般社団法人全国栄養士養成施設協会 全国栄養士養成施設協会会長顕彰

【学内教育活動】

・担当授業科目

農学部：生物生産学概論 B、食品学I、食品学II、フードサイエンス基礎実験I、
フードサイエンス基礎実験II

健康福祉学部：食品学 I、食品学 II、卒業研究、食べ物と健康基礎実験、食品学実験、
総合演習

健康福祉学研究科：食品栄養学特論、食品学特論、応用食品学特論、食品科学総合演習 I、
食品科学総合演習 II、食品栄養学特別研究、食品学研究、応用食品学研究、
特殊研究

【学内委員会活動】

健康福祉学部：広報委員会、高大連携委員会

農学部：農学インターンシップ委員会（2020.04-現在）

【研究業績】

・原著論文

1. Taito Kobayashi, Kei Kumakura, Asaka Takahashi and Hiroki Matsuoka, Low pH Enhances the Glucosinolate-Mediated Yellowing of Takuan-zuke under Low Salt Conditions. Foods. **9**. DOI:10.3390/foods9111524. 2020

2. Wataru Kobayashi, Taito Kobayashi, Asaka Takahashi, Kei Kumakura and Hiroki Matsuoka. Metabolism of glutamic acid to alanine, proline, and γ -aminobutyric acid during takuan-zuke processing of radish root. Journal of Food Science. **86**. DOI:10.1111/1750-3841.15567. 2021

・講演・学会発表

1. 小林泰斗, 熊倉慧, 松岡寛樹. ダイコンイソチオシアネートに由来するタクアン漬け黄色色素中有艦隊の分析法の確立. 群馬県分析研究会 第 45 回研究発表会（2020/12）

・総説・解説など

1. 旬の食材と栄養 味自慢の県産豚肉 日本の長寿に役「元気な暮らしに役立つ栄養のお話」
元気ライフ 6月号. 51. 2020.

2. 大根デトックス 壮快 8月号

・外部予算獲得

1. 国産産業奨学寄付金研究

2. ケアコム奨学寄付金研究

3. アキモ奨学寄付金研究

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

食品衛生管理者講習（食品学 6 コマ、理化学検査実習 18 コマ）

・学外委員会

全国漬物検査協会理事

・学会活動

日本食品科学工学会代議員

・マスコミ広報

NHK 総合 あさいチ「クイズとくもり知ってビックリ！夏野菜の真実」出演／情報提供
(2020.07.21)

NHK 総合 あさいチ「実はカンタン！ことしはおうちで漬物生活」出演／取材協力(2021.01.13)

熊倉 慧（くまくら けい Kei Kumakura）

【研究室】食品学

【職名】講師

【学内教育活動】

・担当授業科目

農学部：生物生産学概論 B、フードサイエンス基礎実験 I、フードサイエンス基礎実験II、食品保蔵学

健康福祉学部：食物学特別講座I、卒業研究、特別講座（食品科学コース）、食品学実験、食品加工学実習、総合演習III

・学内行事の担当

Web 個別相談（2020/12/13）

春のオープンキャンパス Web 個別相談（2020/03/13）

【学内委員会活動】

健康福祉学部：国際交流委員会、広報委員会

【研究業績】

・原著論文

1. Taito Kobayashi, Kei Kumakura, Asaka Takahashi and Hiroki Matsuoka, Low pH Enhances the Glucosinolate-Mediated Yellowing of Takuan-zuke under Low Salt Conditions. Foods. **9**. DOI:10.3390/foods9111524. 2020

2. Wataru Kobayashi, Taito Kobayashi, Asaka Takahashi, Kei Kumakura and Hiroki Matsuoka. Metabolism of glutamic acid to alanine, proline, and γ -aminobutyric acid during takuan-zuke processing of radish root. Journal of Food Science. **86**. DOI:10.1111/1750-3841.15567. 2021

・講演・学会発表

1. 小林泰斗, 熊倉慧, 松岡寛樹. ダイコンイソチオシアネートに由来するタクアン漬け黄色色素中有艦隊の分析法の確立. 群馬県分析研究会 第45回研究発表会（2020/12）

・その他

1. 高崎健康福祉大学学内研究交流助成金（令和元年度～令和3年度）

共同研究者：機能成分を高蓄積した GM 作物解析プラットフォームの開発

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

2020 年度食品衛生管理者登録講習会 講師（食品学及び細菌学実習）

群馬県ぐんま食の安全・安心県民ネットワーク「産学官連携による食の安全理解促進事業」

進路説明会講師（埼玉県立本庄高等学校、栃木県立宇都宮白楊高等学校）

・学会活動

日本きのこ学会 編集委員、日本食品科学工学会、日本農芸化学会

・マスコミ広報

野菜の王様 元気らいふ 8 月号 Vol.53 上毛新聞（2020/08）

栄養豊富で健康アップ! 元気らいふ 12 月号 Vol.57 上毛新聞（2020/12）

赤い色は強い抗酸化力 元気らいふ 2 月号 Vol.59 上毛新聞（2021/02）

岡田 早苗（おかださ なえ Sanae Okada）

【研究室】 食品微生物学

【職名】 教授

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生物生産概論 B、微生物学、フードサイエンスコース基礎実験 I、
フードサイエンスコース基礎実験 II

【学内委員会活動】

健康管理センター運営委員会副委員長、キャリアサポート委員会委員、
入試委員会委員会委員、学部運営委員会委員、大学院設置委員会委員

【研究業績】

・ 原著論文

1. Watanabe A, Yamaguchi T, Murota K, Ishii N, Terao J, Okada S, Tanaka N, Kimata S, Abe A, Suzuki T, Uchino M, and Niimura Y.; Isolation of lactic acid bacteria capable of reducing environmental alkyl and fatty acid hydroperoxides, and the effect of their oral administration on oxidative-stressed nematodes and rats, PLoS ONE, 15(2) { e0215113.} (2020).

・ 講演・学会発表

1. 岡田早苗. 漬物と乳酸菌の話. 第 3 期「発酵の学校」. 日本橋室町野村ビル (2021/02/13)

・ 外部予算獲得

1. 長野県木曽町（共同研究費）
2. 株式会社 新進（奨学金）
3. 株式会社 大泉工場（共同研究費）

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

夢ナビライブ2020 Web WEEK 「学問の講義ライブ」 (2020/10/26-27)

・ 学会活動

所属学会：日本農芸化学会、日本生物工学会、日本食品科学工学会、日本微生物資源学会、日本乳酸菌学会

学会役職：日本乳酸菌学会顧問（編集担当）

・ マスコミ広報

テレビ朝日 林修の今でしょ！講座「キムチ VS ヨーグルト講座」(2020/04/28、再放送 2020/06/20)

日本テレビ スッキリ「3 DAYS「免疫力」」(2020/06/10)

埼玉新聞 (2020/10/23)

日経新聞埼玉版 (2020/11/03)

日経産業新聞 (2020/11/20)

朝日新聞埼玉版 (2020/11/30)

辻 聡 (つじ あきら Akira Tsuji)

【研究室】 食品微生物学

【職名】 助教

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生物生産概論 B、調理学実習、フードサイエンスコース基礎実験 I、
フードサイエンスコース基礎実験 II

・ 学内行事の担当

体育祭副担当 (コロナウイルス感染拡大の影響により中止のため準備のみ)

【学内委員会活動】

教務委員会、学生委員会、地域貢献委員会 (高大連携部会、公開授業ワーキンググループ)、
年報委員

【研究業績】

・ 報告書など

1. 辻聡. 納豆の Dipeptidyl peptidase 4 阻害活性についての広域調査. 令和 2 年度全国納豆協
同組合連合会. 研究報告書.

・ 講演・学会発表

1. 辻聡. 第 16 回納豆健康学セミナー. 納豆の Dipeptidyl peptidase 4 阻害活性についての広域
調査 (2021/03/17)

・ 外部予算獲得

1. 高崎健康福祉大学学内研究交流助成金 (2019/10-2022/10)
2. 受託研究 醤油 PR 協議会 (2020/04/01-2021/03/31)、全国納豆協同組合連合 (2020/04-2021/03)
3. 共同研究 タカノフーズ株式会社 (2019/12/01-2021/03/31)

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

東京農業大学オープンキャンパス後期「食の検定講座 A クラス」. 東京農業大学世田谷代田
キャンパス (2020/10/17)

・ 学会活動

日本乳酸菌学会 編集委員 (2019/09-現在)、全国味醂協会、
日本健康医学会 評議員 (2019/11-現在)、日本食品保蔵科学会

・ マスコミ広報

NHK 総合 あさイチ (2020/05/26)

石岡 大成（いしおか たいせい Taisei Ishioka）

【研究室】 食品安全学

【職名】 准教授

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生物生産学概論 B、食品衛生学、フードサイエンス基礎実験 I、
フードサイエンス基礎実験 II

・ 学内行事の担当

進路説明会（2020/10/26）

保護者会（2020/08/29）

入試対策講座（2020/12/13）

春のオープンキャンパス（2021/03/13）

【学内委員会活動】

研究倫理委員会、保健衛生委員会、広報委員会

【研究業績】

・ 原著論文

1. Murakami K, Kimura S, Nagafuchi O, Sekizuka T, Onozuka D, Mizukoshi F, Tsukagoshi H, Ishioka T, Asai T, Hirai S, Musashi M, Suzuki M, Ohnishi M, Oishi K, Saruki N, Kimura H, Iyoda S, Kuroda M, Fujimoto S. Flagellum expression and swimming activity by the zoonotic pathogen *Escherichia albertii*. Environ Microbiol Rep. 12(1): 92-96. 2020
2. Masuda K, Ooka T, Akita H, Hiratsuka T, Takao S, Fukada M, Inoue K, Honda M, Toda J, Sugitani W, Narimatsu H, Ishioka T, Hirai S, Sekizuka T, Kuroda M, Morita Y, Hayashi T, Kimura H, Oishi K, Ohnishi M, Fujimoto S, Murakami K. Epidemiological aspects of *Escherichia albertii* outbreaks in Japan and genetic characteristics of the causative pathogen. Foodborne Pathog Dis. 17(2): 144-150. 2020
3. Ishioka T, Aihara Y, Carle Y, Shigemura H, Kubomura A, Motoya T, Nakamoto A, Nakamura A, Fujimoto S, Hirai S, Oishi K, Nagaoka H, Kimura H, Murakami K. Contrasting results from two commercial kits testing for the presence of *Clostridium perfringens* enterotoxin in feces from norovirus-infected human patients. Clin Lab. 1;66(5). 2020 doi: 10.7754/Clin.Lab.2019.190801.
4. Saito M, Tsukagoshi H, Ishigaki H, Aso J, Ishii H, Okayama K, Ryo A, Ishioka T, Kuroda M, Saruki N, Katayama K, Kimura H. Molecular evolution of the capsid (VP1) region in human norovirus genogroup II genotype 3. Heliyon. 2020 3;6(5): e03835.
5. Nagaoka H, Hirai S, Morinushi H, Mizumoto S, Suzuki K, Shigemura H, Takahashi N, Suzuki F, Mochizuki M, Asanuma M, Maehata T, Ogawa A, Ohkoshi K, Sekizuka T, Ishioka T, Suzuki S, Kimura H, Kuroda M, Suzuki M, Murakami K, Kanda T. Coinfection with human norovirus and *Escherichia coli* O25:H4 harboring two chromosomal blaCTX-M-14 genes in a foodborne norovirus outbreak in Shizuoka Prefecture, Japan. J Food Prot. 1;83(9): 1584-1591. 2020

・ 講演・学会発表

1. 石岡大成. 細菌とウイルスの相互作用および免疫反応. 令和 2 年度群馬県狂犬病予防注射従事者研修会（オンライン、2021/02/14）

・ 外部予算獲得

1. 公益財団法人群馬県健康づくり財団健康づくり研究助成「あさを賞」

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

群馬パース大学ゲストスピーカー

- ・学外委員会

高崎経済大学後援会理事

- ・学会活動

日本食品微生物学会評議員

- ・マスコミ広報

NHK 総合 ほっとぐんま 630 キャスター企画「この季節に気をつけたい！食中毒」(2020/06/22-24)

- ・その他

SATREPS Web meeting with Ghana (2020/05/11, 2020/05/28, 2020/06/26, 2021/02/12)

AMED 研究班会議「ウイルス性下痢症の網羅的分子疫学・流行予測ならびに不顕性感染実態解明に関する研究」(2020/09/18)

アグリビジネス創出フェア（オンライン、2020/11/11-13）

小林 泰斗（こばやし たいと Taito Kobayashi）

【研究室】 食品安全学

【職名】 助教

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

農学部：生物生産学概論 B、フードサイエンス基礎実験I、フードサイエンス基礎実験II
健康福祉学部：食品衛生学実験、食べ物と健康基礎実験

【学内委員会活動】

農学部：廃液・廃棄物管理（2020-現在）

健康福祉学部：学生委員会（2020-現在）

【研究業績】

・ 原著論文

1. Taito K, Kei K, Asaka T, Hiroki M. Low pH Enhances the Glucosinolate-Mediated Yellowing of Takuan-zuke under Low Salt Conditions. Foods 2020, 9(11), 1524; <https://doi.org/10.3390/foods9111524>
2. Wataru K, Taito K, Asaka T, Kei K, Hiroki M. Metabolism of glutamic acid to alanine, proline, and γ -aminobutyric acid during takuan-zuke processing of radish root. Journal of Food Science 2021, 86(2), 563; <https://doi.org/10.1111/1750-3841.15567>

・ 講演・学会発表

1. 小林泰斗, 熊倉慧, 松岡寛樹. ダイコンイソチオシアネートに由来するタクアン漬け黄色色素中有艦隊の分析法の確立. 群馬県分析研究会 第45回研究発表会（2020/12）

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

出前授業 佐野東高校「食品成分の分析」（2020/11/13）

5.4. アグリビジネスコース

草薙 仁（くさかり ひとし Hitoshi Kusakari）

【研究室】アグリビジネス

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A、アグリビジネス論

【学内委員会活動】

FD・自己点検委員会（2020.04-現在）、教務委員会（2020.04-現在）

【研究業績】

・原著論文

1. 草薙仁, 外部性の時代. 農業経済研究. 92(3): 187-191. 2020.

・総説・解説など

1. 草薙仁, 新型コロナウイルス感染症が家計消費に及ぼす影響. 農業と経済. 86(11): 85-93. 2020.

・講演・学会発表

1. 谷頭子, 草薙仁, エンゲル係数からみた食料消費に関する分析. 日本家政学会 第 72 回大会研究. 82 (2020/05)

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 C (2019-2022) (代表)

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

釧路公立大学経済学部非常勤講師

出前講義 群馬県立渋川工業高等学校 (2021/02/18)

・学会活動

日本農業経済学会 会長 (2018-2020)、日本フードシステム学会 理事 (2020-現在)

齋藤 文信（さいとう ふみのぶ Fuminobu Saito）

【研究室】アグリビジネス

【職名】准教授

【受賞】日本農業経営学会 共同研究学術賞（2020/09/25）

『なぜ企業は農業に参入するのか―農業参入の戦略と理論―』農林統計出版（2020）

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A、食と農のブランド化論

・学内行事の担当

新入生ガイダンス（2020/04/09）

オンライン保護者会（Web 動画、2020/11/20-2020/11/26）

Web オープンキャンパス（動画収録 2020/12/08）

【学内委員会活動】

入試委員会（2020.04-現在）、国際交流委員会（2019.04-現在）

農学インターンシップ実習運営委員（2020.04-現在）

【研究業績】

・著書

1. 齋藤文信、第 15 章 シンガポールにおける日本食レストランの姿、伊東正一、松江勇次編著『世界におけるジャポニカ米の流通、食味及び展望』、養賢堂、260-279、2020。

・講演・学会発表

1. 齋藤文信、果実の流通・マーケティングの実情―消費者ニーズへの対応―、令和 2 年度群馬県果実品評会表彰式・果樹研修会講演（2021/03/18）

・外部予算獲得

1. 科学研究費基盤研究 B（2017-2021）（分担）

2. 科学研究費基盤研究 C（2018-2021）（分担）

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

夢ナビ 模擬授業「軸足は地元、視線は世界へ」～海外の日本食ブームとお米～（オンライン・2020/09/02 収録、2020/10 公開）

夢ナビ オンライン研究室訪問対応（2020/10/24）

高校での職業人ガイダンス 高崎健康福祉大学高崎高等学校「農学部出身者の仕事紹介」（2020/09/09）

・学外委員会

群馬県果樹農業振興計画策定検討会議委員

・学会活動

日本農業経営学会常任編集委員（2019-現在）、日本フードサービス学会研究委員（2015-現在）、日本フードサービス学会 2020 年度大会実行委員（2019-2020）

・その他（視察対応）

群馬県西部農業事務所令和 2 年度第 2 回所内研修（2020/07/28）

群馬県西部農業事務所令和 2 年度農業・農村リーダー研修会講演「近年の流通・直売・消費者ニーズ・PR の事情」（2020/11/26）

谷 顕子（たに あきこ Akiko Tani）

【研究室】 アグリビジネス

【職名】 講師

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生物生産学概論 A、現代農業事情、食と農の地域社会学

・ 学内行事の担当

Web 個別相談（2020/12/13）

春のオープンキャンパス Web 個別相談（2020/03/13）

【学内委員会活動】

広報委員会（2019.4-現在）、キャリアサポート委員会（2019.4-現在）、
教養教育専門部会（2019.4-現在）、インターンシップ運営委員（2020.4-現在）、
年報委員（2019.4-現在）、学年担任（2019.4-現在）

【研究業績】

・ 講演・学会発表

1. 谷顕子, 草苺 仁. エンゲル係数からみた食料消費に関する分析. 一般社団法人日本家政学会 第 72 回大会研究. 82 (2020/05)

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

出前授業 常磐大学高等学校（オンライン、2020/10/28）

・ 学会活動

日本家政学会 第 72 回大会群馬実行委員会、
日本農業経済学会 正会員、地域農林経済学会 正会員、日本家政学会正会員、
日本フードシステム学会 正会員、東北農業経済学会 正会員

6. 受賞者リスト

受賞者名	受賞年月	受賞内容
松岡 寛樹	2019 年 11 月	一般社団法人全国栄養士養成施設協会 全国栄養士養成施設協会会長顕彰
大政 謙次	2020 年 5 月	日本リモートセンシング学会論文賞 受賞論文：「レーザー誘起蛍光ライダーによる植物蛍光の スペクトルおよび寿命のリモートセンシング」
齋藤 文信	2020 年 9 月	日本農業経営学会 共同研究学術賞 受賞著書：「なぜ企業は農業に参入するのか―農業参入の 戦略と理論―」農林統計出版
大政 謙次	2021 年 3 月	日本農業気象学会名誉会員
草薙 仁	2021 年 3 月	日本農業経済学会名誉会員
永井 俊匡	2021 年 3 月	日本農芸化学会 2021 年度大会トピックス賞 受賞演題：「長期間の咀嚼は視床下部の遺伝子発現の変化 と血圧の低下をもたらす」

7. 外部との連携協定

7.1. JA グループ群馬と相互連携協力の推進に係る協定

令和2年6月25日に前橋市亀里町にあるJAビル内で、本学とJAグループ群馬との相互連携協力の推進に係る協定を結ぶための締結式が行われました。協定は、JAグループ群馬の大澤憲一会長と本学須藤学長が、協定書に交互に署名することで締結されました。

この協定は、新進的な『スマート農場』の普及や学生のインターンシップ受け入れによる人材育成などを相互に協力することを目的としています。将来的には、群馬県の農業に資する人材を育成し、農業を目指す若者の増加につながるような成果を上げていくことを期待しています。

高崎健康福祉大学とJAグループ群馬との 相互連携協力の推進に係る協定書

高崎健康福祉大学（以下、甲という）とJAグループ群馬（以下、乙という）は、相互の連携・協力することに基づき、次のとおり相互連携協力の推進に係る協定書（以下「本協定」という）を締結する。

（定義）

第1条 本協定において、乙とは単位農業協同組合を構成する組合員、単位農業協同組合、農業協同組合中央会、農業協同組合連合会をいう。

（目的）

第2条 本協定は、農業振興及び地域社会の活性化と地域社会で活躍できる次世代型人材の育成を基本目的として、甲と乙が相互に協力可能な農業、地域社会等の分野における連携を促すことを目的とする。

（連携・協力事項）

第3条 本協定は連携の目的を達成するため、次の事項について連携・協力をする。
① 高崎健康福祉大学及び地域の活性化に関すること
② 自然と人間社会の共生に向けた自然環境保全に関すること
③ 教育及び次世代型人材育成に関すること
④ その他、本協定の目的を達成するために必要と認めて合意した事項に関すること
2 前項に規定する事項の具体的な内容については、甲と乙が協議したうえ定めるものとする。

（協議）

第4条 本協定の目的を達成するため、毎年定例的な協議を行うものとする。
2 甲と乙の連携担当部署（事務局）は、日基より協議の開催、連絡を行うものとする。

（経費）

第5条 甲と乙が連携・協力して行う事業に関する経費については、甲と乙が協議の上で定めるものとする。

（協定の見直し）

第6条 本協定の見直しは、甲又は乙のどちらからでも、協定内容の見直しの申し出があった場合、甲と乙の協議の上、協定の見直しを行うものとする。

（協定の解釈）

第7条 本協定の解釈に疑義が生じた場合又は本協定に定めのない事項が生じた場合は、甲と乙が協議して決定することとする。

（反社会的勢力の排除）

第8条 連携・協力事項の実施にあたっては、反社会的勢力の排除及びコンプライアンスの遵守のほか、社会的責任を果たすための体制を整え、これを恒范に徹底し行動する。

（秘密保持）

第9条 甲と乙は、連携・協力事業の実施にあたっては、守秘義務のある資料及び個人情報等については関係に依るものとする。

（有効期間）

第10条 本協定の有効期間は、協定締結日から1年間とする。
2 期間満了の日から30日前までに甲又は乙から協定を終了させる意思表示がない場合は、期間満了の日から1年間の自動更新とし、以後同様とする。

（署名）

第11条 本協定の根として、本書を2通作成し、甲と乙がそれぞれ署名する。なお、本協定書の署名における乙については、代表として群馬県農業協同組合中央会の代表理事委員会がこれを行うものとする。

令和2年6月25日

甲 群馬県高崎市中大野町37の1番地
高崎健康福祉大学
学長

須藤 賢一

乙 群馬県前橋市亀里町1311番地
群馬県農業協同組合中央会
代表理事会長

大澤 憲一



協定締結式の様子

7.2. カネコ種苗株式会社、太陽誘電株式会社との連携協定

令和2年11月20日付で、研究開発、地域産業の振興、学術研究の活性化、教育及び人材育成などの相互の協力が可能な分野において連携し、科学技術の振興及び社会の発展に寄与する目的で連携協定を締結した。

8. 健大通信

KENDAI TOPICS

08

地域と連携する生物生産学科

生物生産学科 准教授 齋藤 文信

2019年4月に新設された農学部生物生産学科では、群馬県内唯一の農学部として地域との連携を積極的に進めています。9月には、群馬県と本学が農業振興や6次産業化推進に関する連携協定を結んでいます。これまでに、群馬県農業技術センターとの共同調査研究やセミナー講師の相互派遣などが行われています。

地元である高崎市とも連携しており、県内で発生した野生イノシシのCFRS（豚熱・旧名称は豚コレラ）感染への対応として市内に設置された関係車両への消毒ポイントに、運営補助にあたる学生スタッフの派遣協力を行いました。10月19日～12月29日の土日に、延べ42名の学生が防護服を着用し、市農林課の方と共に飼料運搬車などの消毒にあたりました。谷須子講師が担当する「現代農業事情」（1年次必修）で、CFRSのことを取り上げたこともあって学生の関心は高く、多くの学生が積極的に参加しました。

また2020年1月8日に、株式会社日本政策金融公庫前橋支店の田村佳隆支店長（兼農林水産事業統括）をゲストスピーカーとしてお迎えし、農業経営の始め方や農業金融を実務面から



▲学生による消毒作業準備の様子



▲防護服を着用して準備万端の学生



▲田村支店長による講義の様子

05 | KENDAINET April 2020

健大通信 2020 年 4 月号

学科 Topics

08

農学部生物生産学科の活動報告

農学部 学部長 大政 謙次

新学期が始まって以降、新型コロナウイルス感染症対策のために、休校措置が取られました。しかし、5月11日から授業を開始することになり、学部の教務委員会を中心に、学生の通信ネットワーク環境を調査し、準備を進めました。農学部では、情報リテラシー向上のために、入学時にiPad proの一括購入を義務付けており、納入遅延などはありましたが、新入生も含めて、比較的スムーズに、オンライン方式だけでなく、テレビ会議システムなどを用いた同時双方向のオンライン授業を行うことができました。また、スマート農場も新年度明けには完成し、6月15日からは、2班に分けての対面式の実験実習も開始しました。各授業の担当の先生方には、創意工夫をして授業準備をして頂きました。

学外の機関との連携も、6月25日に、JAGグループ群馬との間で、農業振興及び地域社会の活性化と地域社会で活躍できる次世代型人材の育成を目的とした相互連携協定を締結しました。また、昨年、連携協定を締結しました群馬県とは、7月28日に、県の西部農業事務所の研修会を、9月8日には群馬県農政部との共同研究に向けた交流会を、農学部棟で実施し、活発に交流を行っています。



▲実習時にドローンで撮影した学生の皆さん



▲グリーンハウスでの実習風景



▲実験風景

05 | KENDAI NET Autumn 2020

健大通信 2020 年 11 月号

9. 大学評議委員会報告

第2回評議委員会報告（2020/07/10）

（1）JA グループ群馬との相互連携協力の推進に係る協定の締結（7.1.の連携協定参照）

2020年6月25日（木）に前橋市亀里町にあるJAビル内で、本学とJAグループ群馬との相互連携協力の推進に係る協定を結ぶための締結式が行われました。協定は、JAグループ群馬の大澤憲一会長と本学須藤学長が、協定書に交互に署名することで締結されました。この協定は、新進的な『スマート農場』の普及や学生のインターンシップ受け入れによる人材育成などを相互に協力することを目的としています。将来的には、群馬県の農業に資する人材を育成し、農業を目指す若者の増加につながるような成果を上げていくことを期待しています。

第3回評議委員会報告（2020/10/16）

（1）群馬県西部農業事務所との意見交換会および農学部施設見学

本学と群馬県との連携協定（2019年9月2日付 群馬県における農業振興及び6次産業化推進に係る連携協定）にもとづき、令和2年7月28日に群馬県西部農業事務所による高崎健康福祉大学附属農場（スマート農場）の施設見学および農学部教員との意見交換会が開催されました。今後、更に連携を進めるにあたり、生物生産学科4コースの概要、参加教員による地域貢献に関わる事例・研究の紹介後、スマート農場の施設見学をおこないました。

参加者数：群馬県西部農業事務所（23名）、農学部教員（12名）、計35名



10号館201号室での意見交換会及び附属農場（グリーンハウス）の見学

（2）群馬県との共同研究に向けた交流会

本学と群馬県との連携協定（2019年9月2日付 群馬県における農業振興及び6次産業化推進に係る連携協定）にもとづき、2020年9月8日に群馬県と高崎健康福祉大学の共同研究に向けた交流会が開催されました。会のはじめには群馬県農政部の倉澤副部長と本学

大政農学部長より挨拶がありました。本学廣瀬教授より、「新たなコンニャク育種に向けたゲノム解析の課題と展望」、藤本助教より、「遺伝子組換えカイコを利用した物質生産」、石神准教授より「温室の環境制御およびシミュレーションによる環境予測」、大政学部長より「植物機能リモートセンシングとその応用」についてそれぞれ研究紹介を行いました。群馬県からも農業技術センター田嶋主任より「イチゴにおける環境制御技術の取組」、小暮技師より「センシングを利用したキャベツの栽培管理技術の検討について」と題して発表が行われ、積極的な質疑と意見交換が行われました。

参加者数：群馬県（40名；農業技術センター、蚕糸技術センター、技術支援課、農政課）、農学部教員（9名）、合計49名



研究紹介を行う廣瀬教授と藤本助教

（3）群馬テレビ「JA みどりの風」でスマート農場を紹介

次世代農業へつなぐスマート農場 健大農学部

放送日：2020年10月19日（月）夜9:00～9:30

再放送：2020年10月25日（日）朝8:00～8:30

大学では県内初の農学部を、昨年新設した高崎健康福祉大学。ドローンや情報通信技術（ICT）を活用した「スマート農場」などの健大農学部の次世代農業へつなぐ学びを紹介！



みどりの風の撮影風景

(4) 令和2年度第1回農学部セミナーの開催

農学部が学生の資質向上のために行っているもので、第1回は昨年に引き続き、群馬県農政部の副部長を招へいしました。

日時：2020年10月29日（火）16:30～18:00

場所：10号館201講義室

講師：群馬県農政部副部長 倉澤政則 氏

講演題目「群馬の農業を応援してみませんか」

内容：・群馬の農業の特色と課題

- ・群馬県農政部の組織と仕事～研究、普及、行政での経験を踏まえて～
- ・採用試験について
- ・インターンシップ制度

参加者数：学生50名（内オンライン6名）、教員10名、合計60名



講演と聴講の風景

第4回評議員会報告（2020/12/02）

(1) 農学部の新型コロナウイルス感染防止に対応した学習指導の現状報告

健大通信11月号などをもとに、下記の報告を行った。

- ・対面方式の授業について、前期では、2年生の実験・実習科目（3科目）を実施し、1年生は8月に必修科目の講義を1回のみ実施した。後期では、1年生について、農学部教員が担当する必修科目の講義（4科目）および体育実技を、2年生に関して、実験・実習・演習科目（4科目）を対面方式にて実施している。
- ・各授業の担当教員から、出欠やレポート提出などが滞っている学生へ、それらの状況を通知し、授業への積極的な参加を促している。加えて各教員から農学部事務（教務担当）へ届いた学習の状況を元に、アドバイザー教員からも各学生へ連絡している。

- ・オンライン授業に関する不安の解消を目的として、7月～8月にかけて、アドバイザー教員による個人面談（1、2年生）を実施した。併せて、ガイダンスなどの機会を利用し、相談ごとがある場合はアドバイザー教員へ連絡するように学生へ伝え、学生の学習状況のサポートに努めている。
- ・前期における1年生の履修状況を、昨年度の1年生（現2年生）と比較すると、落第した学生数が多いため、1年生向けのガイダンス（10月26日実施）など、機会を見つけ、学修および単位履修の重要性を学生へ説明している。
- ・後期に、「海外日本食事情演習」（2年生後期の選択科目）の開講を予定していたが、海外への渡航ができないため、今年度は開講せず、来年度に開講する場合は3年生（現2年生）も履修できるように配慮する予定である。

*2020/08/29 保護者対象面談 オンライン20名 対面7名 合計27名

*2020/11/20-26 オンライン保護者会 録画配信

（2）キャリアサポート関係のイベント

2020/10/14 就職ガイダンス

202/10/29 第1回農学セミナー

倉澤農政部副部長 群馬県農業、県の業務、採用試験の関係説明

2020/11/13 群馬県食品工業協会の見学と併せて情報交換

- ・キャリアサポートセンターと連携を密にしている
- ・就職アンケート調査を実施
- ・3年次のインターンシップが就職活動で重要ということを周知
- ・公務員対策講座を2年次より実施
- ・群馬県、JAは協定のおかげで、広報も含めて、色々協力をして頂いている
- ・民間との連携協定も具体化している、など

（3）令和2年度研修講座「高校専門教育研修講座」の開催

群馬県教育委員会が、県下農業高校教員の資質・技能向上のために行っているもの研修講座を昨年に引き続き、農学部で実施しました。

日時：2020年10月16日（金）12:30～16:40

場所：10号館205講義室、農学部棟並びに附属農場

内容：大学紹介 荒木教授

講義「ゲノム情報を生かしたコンニャク育種の展望と課題」廣瀬教授

講義「最先端の分子育種を支える周辺技術」吉積教授

構内・農場見学 荒木教授

参加者数：10名

(4) 令和2年度高崎・安中地域イチゴ研修会の開催

本学と群馬県との連携協定（2019年9月2日付 群馬県における農業振興及び6次産業化推進に係る連携協定）にもとづき群馬県西部農業事務所管内のイチゴ生産者に対し、技術研鑽や相互の情報交流のための初めての研修会が農学部で開かれました。

日時：2020年11月6日（金）13:30～16:30

場所：10号館204講義室、農学部棟ならびに附属農場

内容：研修会 高崎健康福祉大学の取り組み 荒木教授

参加者数：生産者13名他県、市、JA職員 合計27名



高校専門教育県研修講座（廣瀬教授）及びイチゴ研修会（荒木教授）

(5) 令和2年度農業・農村リーダー研修会の開催

本学と群馬県との連携協定（2019年9月2日付 群馬県における農業振興及び6次産業化推進に係る連携協定）にもとづき、群馬県と共同で農業・農村リーダー対象の研修会を開催しました。

日時：2020年11月26日（木）9:45～12:00

場所：10号館201講義室、附属農場

内容：農学部の概要（ビデオ含む）大政学部長

講演「近年の流通・直売・消費者ニーズ・PRの事情―果樹を中心に―」

斎藤准教授

意見交換（農業経営士、農村生活アドバイザーの自己紹介を含む）

農場説明 石神准教授、大野講師、荒木教授、大政学部長

参加者数：生産者8名、群馬県西部農業事務所職員7名 合計15名



講演(齋藤准教授)及び農場見学（ドローンより撮影）

(6) 群馬県食品工業協会の農学部施設の見学と意見交換会の開催

群馬県食品工業協会（理事長：市川豊行氏）より、同協会員を対象にした研修会として、本学農学部研究棟とスマート農場の施設見学および農学部教員との意見交換会の依頼があり、下記の通り実施した。

日時：2020年11月13日（金）13:30～16:30

場所：10号館201講義室、農学部棟、附属農場

内容：下記のとおり

・農学部施設の見学について

農学部棟北側にあるスマート農場のグリーンハウスの最新設備やトマトやイチゴなどの栽培状況などを見学し、ドローンを用いた記念撮影などを行った。農学部棟内見学は4階（生命科学研究室や専門実験室など）と3階（フードサイエンス各研究室や学生実験室、機器室など）、および1階の食品加工室を中心に行った。

・意見交換会について

研修会参加者24名、学部教員12名、大学キャリアサポートセンターから1名の参加があった。企業側からの質問として、大学に質問や相談をしたいときどのようにしたらよいか、また、個別企業が抱えている問題点などについて専門的な質問があった。大学側から、「産地米を含め、群馬県産を売りにした食べものが少ないように感じるが」の質問に対し、各社から「いろいろ県の特徴が出るものを作っている」との紹介があった。大学側から、学生のインターンシップや将来の就職などについて話題を提供し、協会担当者から、インターンシップは業界内を活発にするきっかけにもなるので、食品工業協会内で今後調整を行い、協会が窓口になって大学と企業との間をつなぐ橋渡しなど協力できるようにしたいなどの意見が出された。



グリーンハウスの見学と意見交換会の風景

(参考) 群馬県食品工業協会について

県内に本社や工場を持つ食品製造業、食品関連企業などが連携を図るために昭和 48 年に発足し、主に技術面での交流や連携を積極的に推進してきた。参加会員は令和 2 年 4 月段階で 92 会員（団体会員 9、企業会員 67、賛助会員 16）。事務局は群馬産業技術センター内にあり、群馬県とも密接に連携し、県内の食品業界を束ねる唯一の協会である。

(7) 健大附属農場でイチゴの収穫が始まる

2020 年 5 月に高崎健康福祉大学附属農場にスマートグリーンハウスが完成し、農学部 of 2 年生がイチゴの苗受け等をして栽培が続けられてきた。このほど収穫の時期を迎えたので、それを記念して健大で初めての収穫初めが 12 月 1 日に行われた。

当日は須藤学長ならびに磯貝事務局長が出席し、農学部の学生の手ほどきを受けながら収穫を行いました。最初は果実の表面に触れないで収穫することに戸惑っている様子だったが、最後は果実を傷つけることなく無事収穫することができた。最後に参加者全員で収穫したイチゴを頬張り、今年の出来を占っていた。



学生の手ほどきを受ける磯貝事務局長と無事収穫出来てほほ笑む須藤学長



須藤学長（後列左）と磯貝事務局長（後列右）
ならびに学生の皆さん

第5回評議員会報告（2021/02/19）

（1）令和2年度第2回農学部セミナーの実施

第2回は施設園芸におけるスマート農業を勉強するために、民間会社の専門家を招へいしました。

日時：2020年12月17日（木）16:30～18:00

場所：10号館201講義室

講師：株式会社誠和 取締役 大出浩睦氏

講演題目「施設園芸におけるスマート農業技術

～令和元年度スマート農業実証プロジェクトの成果から～」

参加者数：学生40名、教員10名、合計50名



講演と聴講の風景

（2）令和3年度農学インターンシップ事前説明会

農学部では、食と農に関する実践活動の場を主体的に選択し、就業体験を通じて、各分野における実学的な専門知識や技術を修得することを目的として、「農学インターンシップ」

（3年生・選択科目）を開講する。2021年度の開講に先駆けて、2年生を対象とした事前説明会を下記のとおり実施した。

	日時・場所	内 容
第 1 回	2020 年 12 月 10 日（木） 13:00～14:00、201 講義室	インターンシップの概要について、今後の実習スケジュール、受入れ可能な実習先など《キャリアサポートセンター、農学インターンシップ実習運営委員会》
第 2 回	2021 年 1 月 14 日（木） 13:00～14:00、201 講義室	農業関係試験研究機関実務実習学生の受入れについて《群馬県農政部》
第 3 回	2021 年 2 月 12 日（金） 10:45～12:00、201 講義室	JA グループ群馬による実務実習学生の受入れについて《JA グループ群馬》
第 4 回	2021 年 3 月 12 日（金） 14:00～16:00、201 講義室	食品関連団体・企業への学生インターンシップ受入れについて《群馬県食品工業協会、群馬県立産業技術センター》

- ・第 1 回の事前説明会は、インターンシップの全般的な概要についてキャリアサポートセンターから説明が行われ、農学インターンシップの目的や今後のスケジュール、現在予定している受入れ可能な実習先などについて、実習運営委員会の担当教員から説明が行われた。
- ・第 2 回の事前説明会は、本学と連携協定を結ぶ群馬県の協力を得て、農業関係試験研究機関（農業技術センター、蚕糸技術センター、水産試験場、畜産試験場）の概要と、実務実習学生の受入れについて、群馬県農政部農政課技術調整係から講師を招請し、説明が行われた。
- ・第 3 回の事前説明会は、本学と相互連携協力の推進に係る協定を結ぶ JA グループ群馬の協力を得て、JA グループ群馬の組織概要と、学生インターンシップの概要について、JA 群馬中央会から講師を招請し、説明が行われた。
- ・第 4 回の事前説明会は、インターンシップの基礎知識、就職活動のこころえ、食品関連を中心とした業界・企業紹介、産業技術センターの業務内容などについて、群馬県食品工業協会および群馬県立産業技術センターから 2 名の講師を招請し、説明が行われた。
- ・各回とも、60～80 名が当日参加し、その模様は動画配信により 2 年生全員に共有された。
- ・第 4 回の事前説明会は、2021 年 3 月 12 日（金）14:00（201 講義室）から、群馬県食品工業協会および群馬県立産業技術センターから講師を招請し、関連団体・企業への学生インターンシップ受入れについての説明を予定している。



第 2 回と第 3 回の事前説明会の様子

(3) 令和3年度生の入学前教育スクーリングの実施

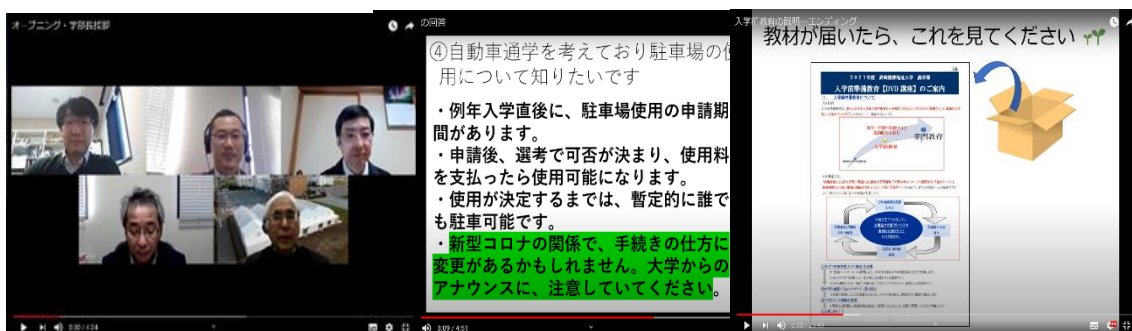
日時：2020年12月19日（土）14:00～15:00

場所：Zoomによるオンライン会議

参加者数：教員5名、受講生32名（後日のオンデマンド配信視聴者のべ13名）

当日内容：学部長・学年担任の挨拶、事前質問への回答、入学前教育の趣旨説明、
受講生自己紹介・交流

農学部では、総合型選抜・学校推薦型選抜の合格者40名に対して、通信添削制の入学前教育プログラムを実施している（12月21日～3月21日）。12月19日は、これに先立ち、入学前教育の趣旨説明と受講生同士の交流のためのスクーリングを実施した。例年と異なり、新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、Zoomでのオンライン・リアルタイム会議にて行った。スクーリングの様子は動画撮影し、後日YouTubeでオンデマンド配信して、当日の不参加者へのフォローも行った。事後アンケートを実施したところ、おおむね好評に受け止められ、受講生の不安解消やモチベーション向上に寄与したものと考えられる。



教員による挨拶、事前質問への回答及び入学前教育の説明

事後アンケート結果：入学前教育の説明を聴いての感想や質問（先着10件のみ掲載）

- ・ 自己紹介ができて同じ学科の人とコミュニケーションがとれてよかったです。
- ・ 課題の説明が分かりやすかった。
- ・ 初めてのことで色々心配な点がありましたが、先生方の顔や入学予定者の声を聞くことができて少し安心しました。
- ・ 授業用ノートのとおり方について不安な点がありましたが説明を聴いて解消できたので良かったです。
- ・ 入学前教育の意義や課題について丁寧に説明して下さってわかりやすかったです。
- ・ 送られてきた資料だけでは理解しきれないところがあったので、説明を聞く事ができてとても助かりました。
- ・ 頑張ろうと思った!!
- ・ 現在の授業の状態や、担任の先生のこと知れて良かったと思います。
- ・ 大学入学後、学習についていけるよう復習をしていきたいです。
- ・ 先生方、お疲れさまでした。

(4) 理事会・評議員会で提供されたいちごのお品書き

- ・恋みのり（丸くてコロコロしている）

農研機構育成

2008 年「03242-08」 x 「熊研い 548（ひのしずく）」

2016（平成 28）年品種登録

大果・多収・高硬度・日持ち性良

果皮淡赤色～赤色、果肉白色

糖度および酸度は比較的安定、食味は良好



- ・やよいひめ（若干細長い）

群馬県育成

1997 年「とねほっぺ x とちおとめ」 x 「とねほっぺ」

2005（平成 17）年品種登録

大果・多収・高硬度・日持ち性良

果皮は橙赤色、果肉は淡赤色

甘味が強く、酸味とのバランスが良好

「恋みのり」と「やよいひめ」

*スマートグリーンハウスで栽培中のイチゴの今後の使用計画

令和 3 年 4 月より 3 年生の作物園芸特別実験・実習で使用

イチゴの生育調査法、栄養診断法、収量調査法、品質調査法、統計解析法を習得

第 6 回評議委員会報告（2021/03/26）

(1) 高崎健康福祉大学大学院農学研究科の設置認可申請について

農学部では令和 4 年 4 月設置を目指して大学院農学研究科（仮称）の設置認可申請を行った。大学院設置は農業・食品産業の明日を担う人材の養成を通じて、本学ならびに農学部
の教育・研究理念の一層の具現化に資するものと考えている。予定している大学院の概要と
これまでの経緯は以下のとおりである。

- ・大学院の概要（以下は全て設置認可申請時点での案）

大学院の名称： 高崎健康福祉大学大学院農学研究科生物生産学専攻

設置する課程： 博士前期課程および博士後期課程

授与する学位の名称： 修士（農学）および博士（農学）

入学定員： 博士前期課程 4 名 博士後期課程 2 名

設置時期： 令和 4 年 4 月

・設置認可申請までの経緯

令和2年3月：大学院設置について検討を開始

同年4月：学部長を委員長とする学部内の大学院設置準備委員会を設置

同年10月：大学院設置について他研究科委員会への報告およびアンケートの依頼

同年10月：入学希望に関するアンケート実施（農学部、健康福祉学部および薬学部）

同年10月：群馬県農業協同組合中央会より設置の要望書を受領

同年11月：群馬県農政部職員へのアンケート実施

同年12月：群馬県食品工業協会より設置の要望書を受領

令和3年2月：群馬県より設置の意見書を受領

⇒令和3年3月17日：文部科学省に設置認可申請書を提出

(2) 学生向け食料支援に附属農場産農産物の提供（農学部）

今年度第3回目の学生向け食料支援が、2021年3月4日（木）・5日（金）の両日、高崎健康福祉大学9号館学生ホールで行われた。これに向けて農学部からは高崎健康福祉大学附属農場産のお米、トマトならびにイチゴを提供した。

今回の食料支援には、両日で37名の学生が食料を受け取りに来たが、特にイチゴは両日も朝どりだったため、その場で食味してもらった学生からは、「甘い、甘酸っぱい、歯ごたえもあっておいしい」、「甘くておいしい、水気があってみずみずしい」という感想であった。次回、日程が合えば、また提供していきたいと考えている。



農学部提供のお米(ゆめまつり)とイチゴをパック詰めする学生（手前のカゴはトマト）

(3) 高崎健康福祉大学農学部、カネコ種苗（株）及び太陽誘電（株）の連携協定締結

2020年11月20日付で、研究開発、地域産業の振興、学術研究の活性化、教育及び人材育成などの相互の協力が可能な分野において連携し、科学技術の振興及び社会の発展に寄与する目的で連携協定を締結した。

(4) 群馬県との共同研究に向けた交流会（第2回）の開催

日時：2021年3月23日（火）13:30～16:30

場所：群馬県農業技術センター

内容：圃場見学（①キュウリ環境制御研究ハウス、②半促成ナス、③鉢物カーネーション・アジサイの育種、④イチゴ選抜ハウス）

意見交換（①イチゴ「やよいひめ」の高設栽培条件での特性解明、②イチゴ「やよいひめ」の日持ち性、硬度等の特性解明、③県育成やまといも品種「ぐんまとりりん」のDNA品種識別（SNPsマーカー作成）、④キュウリ環境制御研究、生育履歴管理システムを用いた生育診断方法について、⑤（将来的に）小麦育種に係る、製パン性、耐病性、穂発芽耐性等のDNAマーカー選抜支援、⑥施設キュウリの環境制御技術に関する試験）

参加者数：群馬県農政課2名、農業技術センター20名、高崎健康福祉大学農学部6名
合計28名



交流風景（伊勢崎 群馬県農業技術センター）

10. 生物生産学科ホームページ News & Topics

*大学評議委員会報告と重複がない記事を以下に示す。

(1) 岡田早苗教授がテレビ出演します

本学農学部生物生産学科の岡田早苗教授が、明日（4月7日（火））の19:00～20:54に放送されるテレビ朝日「林修の今でしょ！講座」に、講師として出演いたします。

テレビ朝日 林修の今でしょ！講座

テーマ「ヨーグルト対キムチ」

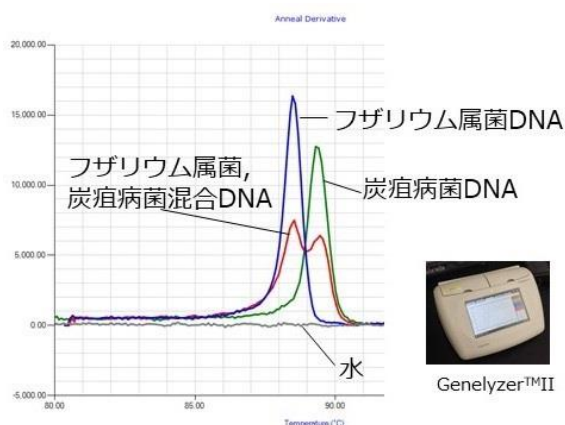
URL：<https://www.tv-asahi.co.jp/imadesho/>

(2) 加藤寛准教授の取得特許が紹介されました

生命科学コース植物病理学の加藤寛准教授の取得特許（特許 6381771）が、キヤノンメディカルシステムズ株式会社にてホームページにて紹介されました。

（URL：<https://mfl.ssl.cdn.sdlmedia.com/637206951856731060DM.pdf>）

紹介された特許題目は、「萎黄病菌由来の核酸を増幅するためのプライマーセットおよび萎黄病菌の検出方法」です。



図の説明：キヤノンメディカルシステムズ株式会社のGenalyzer Fの機能である、会合曲線解析を実施することで、約1時間半の処理でイチゴ炭疽病菌とフザリウム属菌の2菌種を同時検出可能であることがわかりました。以上よりGenalyzer Fによる会合曲線解析は、特異性確認のほか、2菌種の同時検出でも使用できることが示唆されました。

(3) 大政謙次教授が「論文賞」を受賞

2020年5月13日に、農業情報システム学研究室の大政謙次教授が日本リモートセンシング学会の「論文賞」を受賞されました。

受賞者：斎藤保典・大政謙次

受賞論文：「レーザー誘起蛍光ライダーによる植物蛍光のスペクトルおよび寿命のリモートセンシング」

(4) 岡田早苗教授がテレビ出演しました

本学農学部岡田早苗教授が、下記の番組に講師・解説者として出演いたしました。

放送日：2020年4月28日（火）19:00～20:54

番組名：テレビ朝日「林修の今でしょ！講座」

テーマ：ヨーグルト VS キムチ

URL：<https://www.tv-asahi.co.jp/imadesho/osarai/0034/>

放送日：2020年6月10日（水）8:00～10:25

番組名：日本テレビ「スッカリ」 3DAY「免疫力」

内 容：免疫力を高めるための食事について解説します

URL：<https://www.ntv.co.jp/sukkiri/articles/1727gt76rbirkfjnxg.html>

(5) 石岡大成准教授がテレビ出演しました

本学農学部石岡大成准教授が、下記の番組に出演いたしました。

出演番組：NHK「ほっとぐんま 630」

出演日時：6月22日（月）～6月24日（水）各日午後6:30～

番組内容：「この季節に気をつけたい！食中毒」

22日（月）「食中毒について」

23日（火）「調理時に気をつけたいこと」

24日（水）「お弁当やテイクアウトに注意点」

URL：<https://www4.nhk.or.jp/P6329/>

(6) 農場農産物を学生支援に提供しました

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける学生への支援として、7月14日および15日に学内で実施された一人暮らし学生（希望者）への食料配布の際、農学部のスマート農場で収穫されたジャガイモとナスを提供しました。

※本件は上毛新聞（2020年7月15日）にも掲載されました



提供されたスマート農場で収穫された農産物

(7) ラジオ「JA グリーン NAVI」に農学部の学部長と学生が出演します

JA グループ群馬が提供する FM 群馬のラジオ番組「JA グリーン NAVI」に、本学農学部の大政謙次学部長と学生 2 名が出演します。

出演番組：「JA グリーン NAVI」

(URL：<https://www.fmgunma.com/fmg863/jagreennavi/>)

出演日時：8 月 10 日（月）、8 月 17 日（月）、

8 月 24 日（月）、8 月 31 日（月）

各日 12:55～13:00

番組内容：月曜日は「農業」と「学校・学生」にスポットをあてて県内の活動を紹介します

○8 月 10 日（月） 農学部の紹介／JA との提携について

○8 月 17 日（月） スマート農場について

○8 月 24 日（月） 学生さんの声①

○8 月 31 日（月） 学生さんの声②



出演後の学生と揚妻アナウンサーとの記念撮影

(8) 齋藤文信准教授が日本農業経営学会の「共同研究学術賞」を受賞

2020 年 9 月 25 日に、アグリビジネス研究室の齋藤文信准教授が日本農業経営学会の「共同研究学術賞」を受賞されました。

受賞者：渋谷往男・大仲克俊・齋藤文信・納口るり子・吉田行郷

対象業績：『なぜ企業は農業に参入するのか―農業参入の戦略と理論―』農林統計出版
(2020 年 2 月刊行)

(9) 群馬テレビ「JA みどりの風」で農学部のスマート農場が紹介されます

群馬テレビで毎週月曜日 21:00 から放送中の番組「JA みどりの風」で、本学の農学部が紹介されます。スマート農場での取組を中心に、農場で栽培中の作物や、スマートグリーンハウスの機能、学生の実習の様子やインタビューが放送されます。また、ドローンや最新の ICT 技術を用いた取り組みについても紹介されます。

放送日：2020 年 10 月 19 日（月） 21:00～21:30

（再放送：2020 年 10 月 25 日（日） 8:00～8:30）

番組名：群馬テレビ「JA みどりの風」

テーマ：次世代農業へつなぐスマート農場 健大農学部

URL：<https://www.gtv.co.jp/program/info/ja/>

(10) 農学部教員が夢ナビライブ 2020（オンライン開催）に参加しました

2020年9月30日～10月6日（仙台会場）と2020年10月21日～10月27日（東京会場）の期間にオンラインで開催された夢ナビライブ2020で、本学農学部の4名の教員がミニ講義を配信しました。現在、大政謙次教授（作物園芸システムコース）、岡田早苗教授（フードサイエンスコース）、吉積毅教授（生命科学コース）、齋藤文信准教授（アグリビジネスコース）の4名の教員の講義動画が公開中です。

講義動画は下記のURL（<https://yumenavi.info/portal.aspx?CLGAKOCD=000800&p=gkb9>）から視聴できますので、ぜひご覧ください。

(11) アグリビジネス創出フェア 2020（オンライン開催）に出展しました

2020年11月11～13日にオンラインで開催されたアグリビジネス創出フェア2020へ出展し、本学農学部の4コースの研究内容を紹介しました。

出展した研究内容は以下のとおりです。

- 1) イチゴ病害早期検出技術の開発（生命科学コース）
- 2) 植物機能リモートセンシングとスマート農業（作物園芸システムコース）
- 3) ジビエ製品の微生物学的安全性確認（フードサイエンスコース）
- 4) 農産物のさらなる輸出拡大に向けて（アグリビジネスコース）

期間中は多くの参加者に展示資料をダウンロードしていただき、複数のWeb相談を行いました。

(12) 櫻庭客員教授による講義が行われました

2020年11月19日の「六次産業化演習」（2年生開講科目）で、櫻庭英悦客員教授（元農林水産省食料産業局長）に講義を行いました。

櫻庭客員教授は、農林水産省食料産業局長として食料産業の振興や六次産業化政策に関わっておられ、局長時代のご経験等をふまえて事例と理論を織り交ぜた講義が行われました。



講義の様子

(13) JA 群馬中央会からゲストスピーカーをお招きしました

本学と相互連携協力の推進に係る協定を締結している JA グループ群馬から、JA 群馬中央会の伊与久正人氏を講師としてお招きして、2020 年 11 月 25 日の「現代農業事情」(1 年生開講科目)でご講演をいただきました。

ご講演では、協同組合論の基礎から JA グループ群馬の現在の活動まで、幅広くお話をしていただき、最後に質疑応答を行いました。



講義の様子

(14) JA あがつまの代表理事と加工部顧問による講義が行われました

2021 年 1 月 14 日の「六次産業化演習」(2 年生開講科目)で、JA あがつまの山崎拓美代表理事理事長、関恒夫加工部顧問のお二人による、農産加工品の開発と地域活性化についての講義が行われました。事前に学生から提案されたアイディアに対する講評をいただくなど、コロナ禍で実施の難しい現地視察にかわる実践的内容の演習となりました。

当日は JA あがつまの加工品が実際に展示され、一部は試食を行うなど、学生は耳と目と舌で六次産業化事例を学ぶ機会となりました。なお、今回の講義は JA グループ群馬との相互連携協力の推進に係る協定に基づき、JA 群馬中央会、JA あがつまのご協力により実施されました。



講義の様子と加工品の展示

11. 来訪者リスト

2020/04/15	群馬県農政部蚕糸園芸課 群馬県蚕糸技術センター 群馬県蚕糸技術センター	3 名	共同研究に向けた交流会
2020/07/07-09	国立研究開発法人産業技術総合研究所	2 名	実験機材の設置
2020/07/28	西部農業事務所	30 名	施設見学、意見交換会
2020/06/10,08/19, 08/25, 12/23	NTT 東日本ビジネスイノベーション 本部	2 名	共同研究に関する協議
2020/08/26	高崎市役所	6 名	農福連携における野菜生産技術
2020/09/08	群馬県農政部、農業技術センター他	40 名	共同研究に向けた意見交換会
2020/09/17	NEDO	1 名	研究進捗状況の確認
2020/09/28, 2021/01/05	国立研究開発法人産業技術総合研究所	2 名	実験と共同研究打合せ
2020/10/16	群馬県総合教育センター	10 名	高校専門教育研修講座の実施
2020/10/29	群馬県農政部	1 名	第 1 回農学部セミナーの講師
2020/11/6	群馬県西部農業事務所	27 名	高崎・安中地域イチゴ研修会 の開催
2020/11/13	群馬県食品工業協会	24 名	意見交換会
2020/12/03	株式会社アグリクリニック研究所	2 名	共同研究に向けた交流会
2020/12/16	AdaBio 株式会社	2 名	学生インターンシップ打合せ
2020/12/17	株式会社誠和	1 名	第 2 回農学部セミナーの講師
2020/12/17	株式会社アグリクリニック研究所 株式会社ネオノーバス	5 名	共同研究に向けた交流会
2021/01/13	群馬県農政部	2 名	農作業安全講習の講師
2021/01/20	群馬県農政部蚕糸園芸課	1 名	共同研究に向けた連絡
2021/01/20	放送大学	1 名	蚕の飼育解説依頼
2021/01/20	埼玉県立秩父農工科学高等学校	1 名	健大農学部について問合せ
2021/02/24-26	国立研究開発法人産業技術総合研究所	5 名	共同研究打合せ

高崎健康福祉大学農学部年報
令和 2 年度（2020 年度）
第 2 号

発行日 2021 年 12 月
編集 農学部年報委員会
石神 靖弘
加藤 寛
辻 聡
谷 顕子
熊倉 慧（広報委員）
